



茨城県

## 茨城県景気ウォッチャー調査 (令和元年12月調査分)

### 《景気の現状判断DI》

	令和元年9月	令和元年12月	前回調査比
茨城県	46.1	<b>41.9</b>	△4.2
県北地域	46.1	<b>45.5</b>	△0.6
県央地域	50.9	<b>42.5</b>	△8.4
鹿行地域	41.2	<b>42.7</b>	+1.5
県南地域	46.6	<b>40.7</b>	△5.9
県西地域	45.6	<b>37.9</b>	△7.7

### 《景気の先行き判断DI》

	令和元年9月	令和元年12月	前回調査比
茨城県	37.2	<b>42.9</b>	+5.7
県北地域	40.8	<b>46.9</b>	+6.1
県央地域	35.3	<b>42.5</b>	+7.2
鹿行地域	34.2	<b>43.1</b>	+8.9
県南地域	38.4	<b>39.4</b>	+1.0
県西地域	37.3	<b>42.7</b>	+5.4

令和2年1月

茨城県政策企画部統計課

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	30

問い合わせ先  
茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632  
公式サイトのURL  
[http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/be  
tsu/bukka/watch/index.html](http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/be<br/>tsu/bukka/watch/index.html)

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

### (2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	36	36	36	184
企業関連	製造業、建設業、金融業等	19	16	19	19	19	92
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

## 3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	283 人	94.3%
県北地域	60 人	56 人	93.3%
県央地域	60 人	57 人	95.0%
鹿行地域	60 人	58 人	96.7%
県南地域	60 人	54 人	90.0%
県西地域	60 人	58 人	96.7%

## 4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

## 5 調査月及び調査期間

調査月は6月, 9月, 12月及び3月の年4回である。令和元年12月調査の調査期間は, 令和元年12月2日から令和元年12月31日である。

## 6 利用上の注意

- (1) D I (Diffusion Index) は景気の方性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり, 景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は, 小数第1位までの表示とし, 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって, 構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は, 以下のとおり5段階としているが, それぞれに点数化し, これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて, 景気の方性をみるための指標 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例  
回答者数100名で, 回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は,

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって, D I 値は,  
(1点×15.0%) + (0.75点×27.0%) + (0.5点×25.0%) + (0.25点×11.0%)  
+ (0点×22.0%) = 50.5となる。

この値は, 全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから, 50を上回っているときは, 景気は上昇局面にあり, 50を下回っているときは, 景気の下  
降局面にあるといえる。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 全県の動向

#### (1)景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは41.9となった。令和元年9月調査（以下、「前回調査」という。）より4.2ポイント低下し、横ばいを表す50を5期連続で下回った。

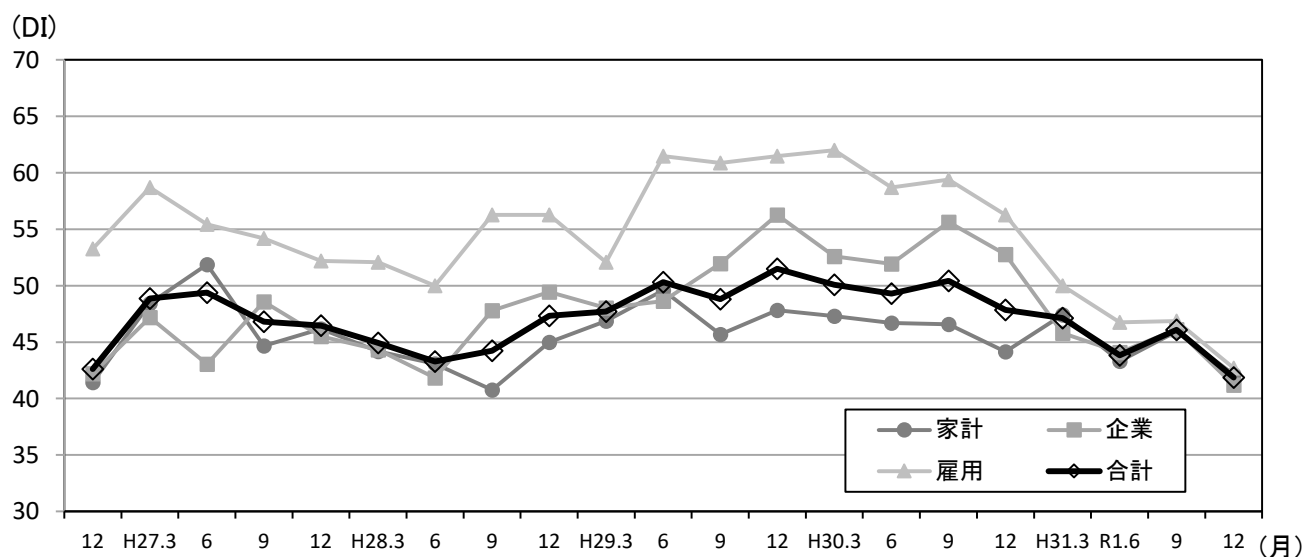
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
合計		47.8	47.1	43.8	46.1	41.9
家計動向関連		44.1	47.4	43.3	46.0	42.1
小売関連		42.0	44.3	41.5	44.3	36.5
飲食関連		42.4	47.8	44.8	40.9	39.3
サービス関連		46.1	50.0	44.7	49.0	47.3
住宅関連		47.2	46.9	40.6	43.8	46.9
企業動向関連		52.8	45.8	44.1	46.1	41.2
農林水産業		50.0	40.6	34.4	57.1	40.6
製造業		51.6	43.1	44.7	42.7	38.5
非製造業		55.1	50.7	45.6	48.6	45.0
雇用関連		56.3	50.0	46.7	46.9	42.7

表1-2 回答構成比

	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	2.8%	1.4%	1.8%	1.0%	1.1%
やや良くなっている	17.0%	17.4%	10.9%	18.1%	12.0%
変わらない	54.7%	54.7%	54.9%	50.5%	48.1%
やや悪くなっている	20.1%	21.3%	25.7%	24.7%	31.1%
悪くなっている	5.5%	5.2%	6.7%	5.6%	7.8%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは42.9となった。前回調査より5.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を5期連続で下回った。

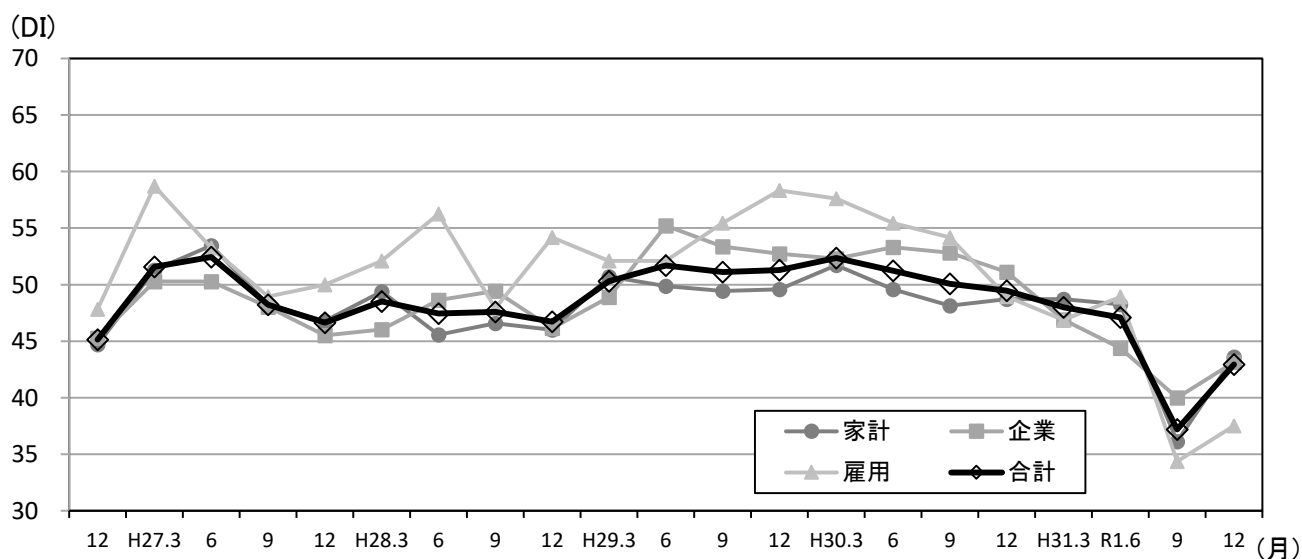
表1-3 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
分野	12月	3月	6月	9月	12月
合計	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9
家計動向関連	48.7	48.7	48.3	36.1	43.6
小売関連	46.6	48.9	46.9	29.5	42.3
飲食関連	46.7	42.4	46.9	35.2	45.2
サービス関連	49.0	51.6	49.0	42.5	43.6
住宅関連	66.7	37.5	56.3	31.3	50.0
企業動向関連	51.1	46.9	44.4	40.0	43.1
農林水産業	50.0	53.1	50.0	46.4	37.5
製造業	50.0	44.7	43.1	38.0	42.7
非製造業	52.9	48.5	44.9	41.4	45.0
雇用関連	49.0	46.9	48.9	34.4	37.5

表1-4 回答構成比

	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
	12月	3月	6月	9月	12月
良くなっている	3.1%	2.4%	2.1%	1.4%	0.0%
やや良くなっている	17.0%	18.1%	19.7%	9.8%	12.4%
変わらない	57.8%	52.3%	50.4%	38.3%	53.7%
やや悪くなっている	19.0%	23.3%	20.1%	37.3%	27.2%
悪くなっている	3.1%	3.8%	7.7%	13.2%	6.7%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1)景気の現状判断DI

#### ① 県北地域

景気の現状判断DIは45.5となった。前回調査より0.6ポイント低下して、横ばいを表す50を5期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
分野	12月	3月	6月	9月	12月
合計	<b>48.7</b>	<b>40.9</b>	<b>43.4</b>	<b>46.1</b>	<b>45.5</b>
家計動向関連	41.2	40.7	44.1	46.3	46.3
企業動向関連	60.5	39.5	40.8	43.4	44.4
雇用関連	56.3	50.0	50.0	56.3	43.8

表2-2 回答構成比

	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
	12月	3月	6月	9月	12月
良くなっている	5.3%	0.0%	5.3%	1.8%	0.0%
やや良くなっている	19.3%	10.3%	10.5%	15.8%	16.1%
変わらない	45.6%	53.4%	47.4%	50.9%	55.4%
やや悪くなっている	24.6%	25.9%	26.3%	28.1%	23.2%
悪くなっている	5.3%	10.3%	10.5%	3.5%	5.4%

#### ② 県央地域

景気の現状判断DIは42.5となった。前回調査より8.4ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
分野	12月	3月	6月	9月	12月
合計	<b>47.5</b>	<b>52.6</b>	<b>43.2</b>	<b>50.9</b>	<b>42.5</b>
家計動向関連	44.2	52.0	44.7	52.0	43.8
企業動向関連	51.7	51.7	35.9	48.4	39.1
雇用関連	60.0	60.0	55.0	50.0	45.0

表2-4 回答構成比

	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
	12月	3月	6月	9月	12月
良くなっている	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%	3.5%
やや良くなっている	16.9%	27.6%	13.6%	27.6%	8.8%
変わらない	47.5%	46.6%	47.5%	41.4%	47.4%
やや悪くなっている	30.5%	20.7%	37.3%	24.1%	35.1%
悪くなっている	1.7%	1.7%	1.7%	3.4%	5.3%

### ③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは42.7となった。前回調査より1.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
分野	12月	3月	6月	9月	12月
合計	<b>49.1</b>	<b>46.5</b>	<b>43.8</b>	<b>41.2</b>	<b>42.7</b>
家計動向関連	48.5	49.2	43.9	39.4	41.9
企業動向関連	50.0	43.4	43.1	43.4	43.4
雇用関連	50.0	40.0	45.0	45.0	45.0

表2-6 回答構成比

	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
	12月	3月	6月	9月	12月
良くなっている	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%	1.7%
やや良くなっている	17.5%	15.8%	7.1%	14.0%	15.5%
変わらない	61.4%	57.9%	58.9%	47.4%	44.8%
やや悪くなっている	14.0%	22.8%	28.6%	28.1%	27.6%
悪くなっている	5.3%	3.5%	3.6%	10.5%	10.3%

### ② 県南地域

景気の現状判断DIは40.7となった。前回調査より5.9ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
分野	12月	3月	6月	9月	12月
合計	<b>50.0</b>	<b>50.9</b>	<b>48.7</b>	<b>46.6</b>	<b>40.7</b>
家計動向関連	46.4	52.9	47.8	47.8	40.8
企業動向関連	55.6	51.4	51.3	46.1	39.5
雇用関連	55.0	35.0	45.0	40.0	45.0

表2-8 回答構成比

	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年	令和元年
	12月	3月	6月	9月	12月
良くなっている	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	15.5%	15.5%	15.5%	13.8%	13.0%
変わらない	70.7%	62.1%	65.5%	63.8%	44.4%
やや悪くなっている	12.1%	19.0%	17.2%	17.2%	35.2%
悪くなっている	1.7%	0.0%	1.7%	5.2%	7.4%



### ③ 県西地域

景気の現状判断DIは37.9となった。前回調査より7.7ポイント低下して、横ばいを表す50を23期連続で下回った。

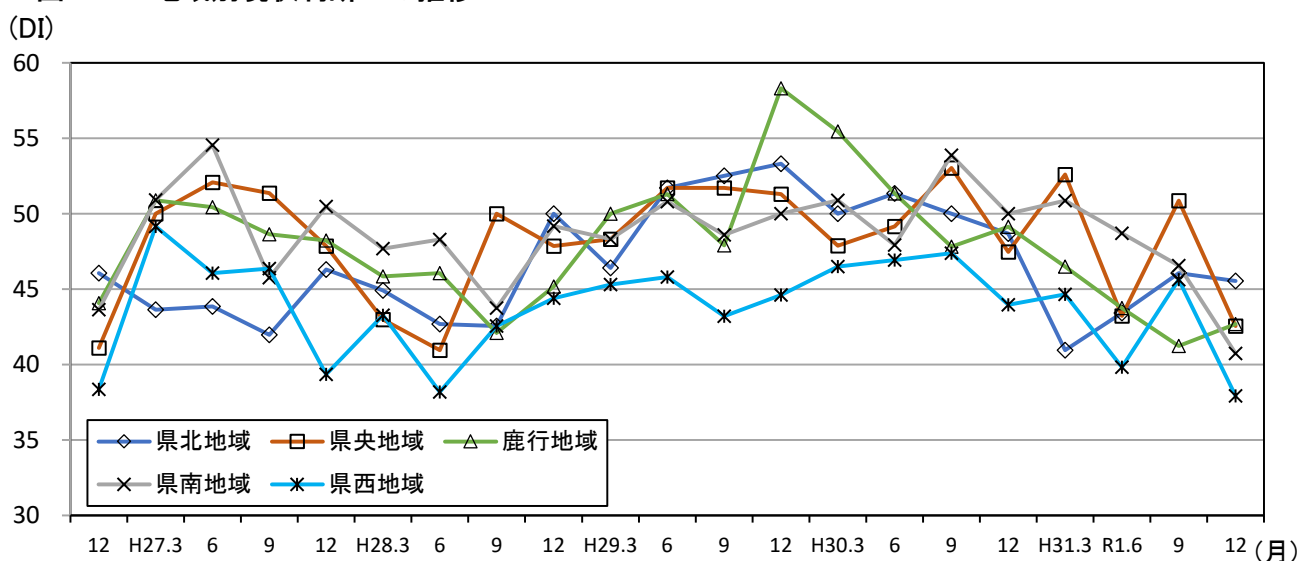
表2-9 景気の現状判断DI

調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
分野					
合計	<b>44.0</b>	<b>44.6</b>	<b>39.8</b>	<b>45.6</b>	<b>37.9</b>
家計動向関連	40.4	41.7	35.6	43.6	37.5
企業動向関連	46.1	44.4	48.5	50.0	39.5
雇用関連	60.0	65.0	37.5	45.0	35.0

表2-10 回答構成比

	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	3.4%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	15.5%	17.9%	7.4%	19.3%	6.9%
変わらない	48.3%	53.6%	55.6%	49.1%	48.3%
やや悪くなっている	19.0%	17.9%	18.5%	26.3%	34.5%
悪くなっている	13.8%	10.7%	16.7%	5.3%	10.3%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.3	30.6	30.9	30.12	31.3	R1.6	R1.9	R1.12月
県全体	42.6	48.9	49.4	46.8	46.5	44.9	43.3	44.2	47.3	47.7	50.3	48.8	51.5	50.1	49.3	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1	41.8
県北	46.1	43.6	43.9	42.0	46.3	44.9	42.7	42.5	50.0	46.4	51.7	52.5	53.3	50.0	51.3	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1	45.5
県央	41.1	50.0	52.1	51.4	47.8	43.0	40.9	50.0	47.8	48.3	51.7	51.7	51.3	47.9	49.2	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9	42.5
鹿行	44.1	50.9	50.4	48.6	48.2	45.8	46.1	42.1	45.2	50.0	51.3	47.9	58.3	55.5	51.3	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2	42.7
県南	43.6	50.9	54.5	45.8	50.5	47.7	48.3	43.8	49.2	48.3	50.8	48.6	50.0	50.9	47.9	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6	40.7
県西	38.4	49.2	46.1	46.4	39.4	43.3	38.2	42.5	44.4	45.3	45.8	43.2	44.6	46.5	46.9	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6	37.7
全国	45.0	49.5	51.4	48.8	47.9	42.9	41.8	46.2	49.9	48.4	50.6	50.9	52.9	49.6	48.8	48.3	46.8	44.8	44.0	46.7	39.8(季節調整値) 40.7(原数値)

## (2)景気の先行き判断DI

### ① 県北地域

景気の先行き判断DIは46.9となった。前回調査より6.1ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
分野					
合計	<b>50.0</b>	<b>43.5</b>	<b>47.4</b>	<b>40.8</b>	<b>46.9</b>
家計動向関連	45.6	41.4	50.0	41.9	50.7
企業動向関連	57.9	46.1	40.8	40.8	41.7
雇用関連	50.0	50.0	56.3	31.3	37.5

表2-12 回答構成比

	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	5.3%	0.0%	3.5%	3.5%	0.0%
やや良くなっている	17.5%	13.8%	21.1%	8.8%	14.3%
変わらない	54.4%	53.4%	45.6%	45.6%	62.5%
やや悪くなっている	17.5%	25.9%	21.1%	31.6%	19.6%
悪くなっている	5.3%	6.9%	8.8%	10.5%	3.6%

### ② 県央地域

景気の先行き判断DIは42.5となった。前回調査より7.2ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
分野					
合計	<b>50.8</b>	<b>54.3</b>	<b>49.6</b>	<b>35.3</b>	<b>42.5</b>
家計動向関連	53.2	58.6	51.3	32.4	42.4
企業動向関連	46.7	46.7	42.2	40.6	45.3
雇用関連	45.0	45.0	60.0	40.0	35.0

表2-14 回答構成比

	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	5.1%	5.2%	3.4%	1.7%	0.0%
やや良くなっている	20.3%	32.8%	25.4%	13.8%	8.8%
変わらない	47.5%	37.9%	42.4%	25.9%	56.1%
やや悪くなっている	27.1%	22.4%	23.7%	41.4%	31.6%
悪くなっている	0.0%	1.7%	5.1%	17.2%	3.5%

### ③ 鹿行地域

景気の先行き判断D Iは43.1となった。前回調査より8.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を5期連続で下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
分野					
合計	<b>48.7</b>	<b>49.1</b>	<b>46.0</b>	<b>34.2</b>	<b>43.1</b>
家計動向関連	47.0	50.0	47.7	31.8	42.6
企業動向関連	52.6	50.0	41.7	38.2	47.4
雇用関連	45.0	40.0	50.0	35.0	30.0

表2-16 回答構成比

	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%
やや良くなっている	15.8%	17.5%	12.5%	3.5%	15.5%
変わらない	63.2%	57.9%	57.1%	36.8%	50.0%
やや悪くなっている	14.0%	21.1%	25.0%	45.6%	25.9%
悪くなっている	5.3%	1.8%	3.6%	12.3%	8.6%

### ② 県南地域

景気の先行き判断D Iは39.4となった。前回調査より1.0ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
分野					
合計	<b>47.8</b>	<b>50.0</b>	<b>50.0</b>	<b>38.4</b>	<b>39.4</b>
家計動向関連	50.0	53.6	52.9	37.5	42.5
企業動向関連	41.7	45.8	46.1	40.8	34.2
雇用関連	55.0	40.0	45.0	35.0	40.0

表2-18 回答構成比

	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	0.0%	5.2%	1.7%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	17.2%	13.8%	22.4%	8.6%	9.3%
変わらない	60.3%	56.9%	56.9%	48.3%	51.9%
やや悪くなっている	19.0%	24.1%	12.1%	31.0%	25.9%
悪くなっている	3.4%	0.0%	6.9%	12.1%	13.0%

③ 県西地域

景気の先行き判断DIは42.7となった。前回調査より5.4ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

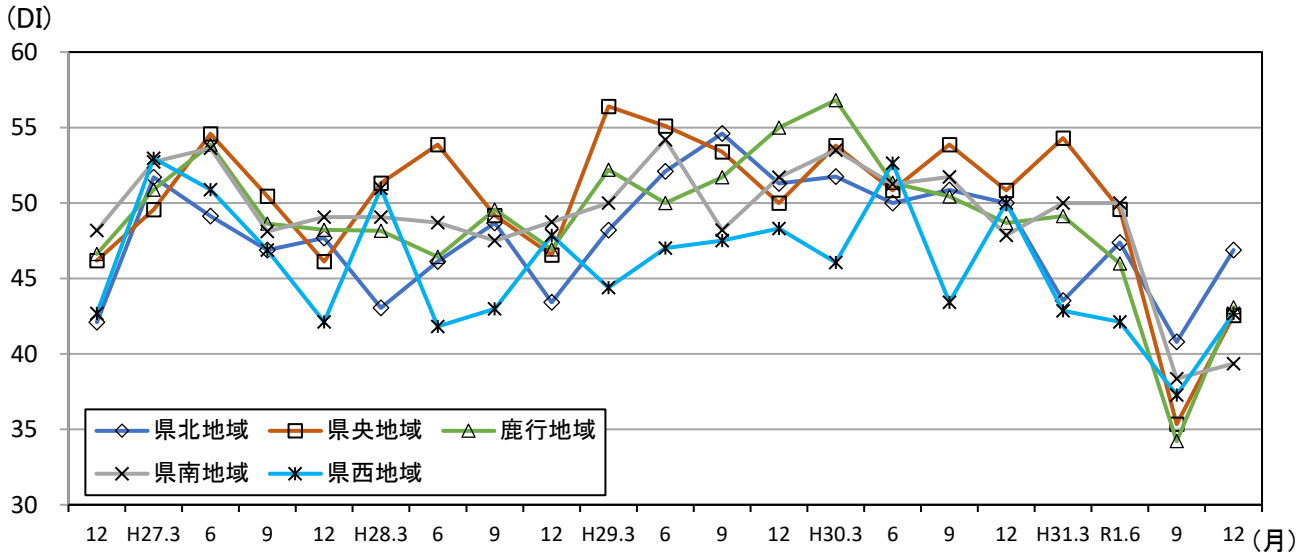
表2-19 景気の先行き判断DI

調査年月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
分野					
合計	50.0	42.9	42.1	37.3	42.7
家計動向関連	47.1	38.6	38.6	37.1	39.7
企業動向関連	55.3	45.8	51.5	39.7	47.4
雇用関連	50.0	60.0	31.3	30.0	45.0

表2-20 回答構成比

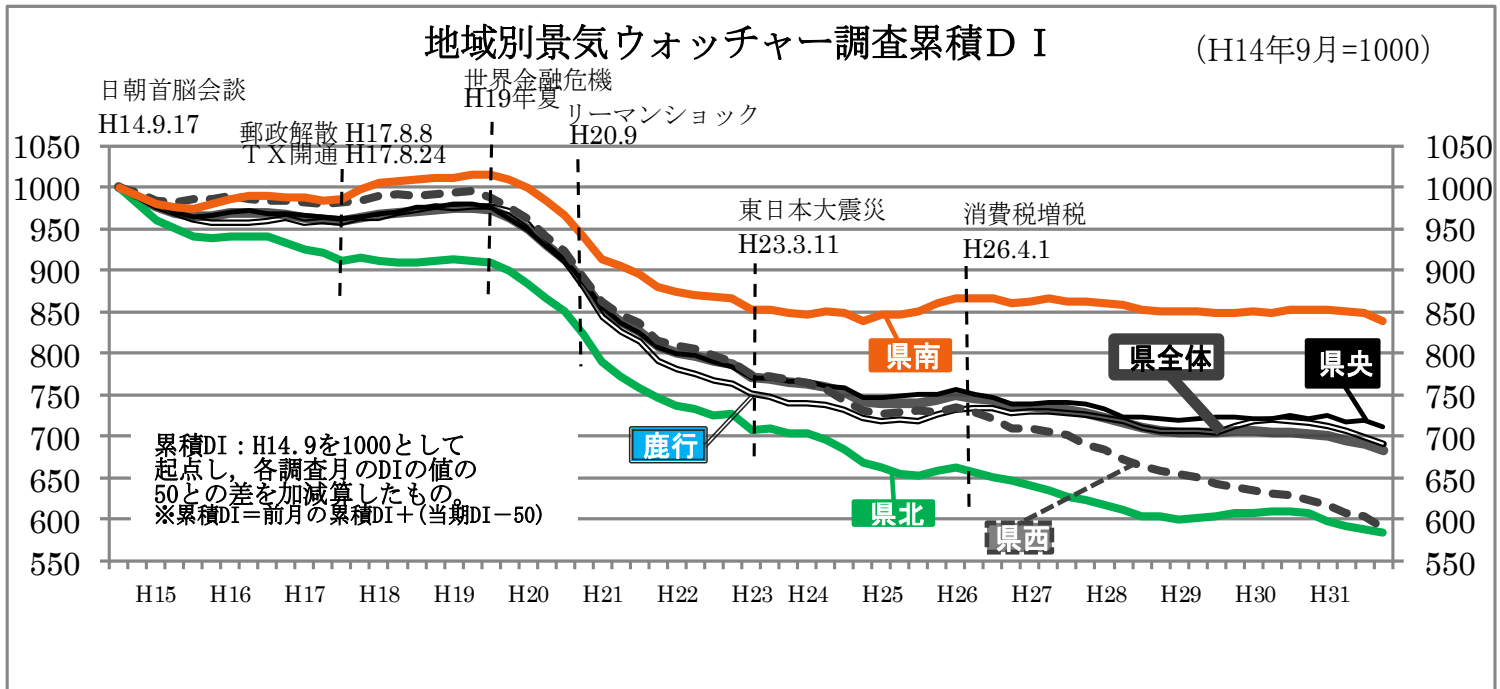
	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月	令和元年 9月	令和元年 12月
良くなっている	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	13.8%	12.5%	16.7%	14.0%	13.8%
変わらない	63.8%	55.4%	50.0%	35.1%	48.3%
やや悪くなっている	17.2%	23.2%	18.5%	36.8%	32.8%
悪くなっている	1.7%	8.9%	14.8%	14.0%	5.2%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.3	30.6	30.9	30.12	31.3	R1.6	R1.9	R1.12月
県全体	45.1	51.6	52.4	48.2	46.6	48.5	47.5	47.6	46.7	50.3	51.7	51.1	51.3	52.4	51.2	50.1	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9
県北	42.1	51.7	49.1	46.9	47.7	43.1	46.1	48.7	43.4	48.2	52.1	54.6	51.3	51.8	50.0	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8	46.9
県中央	46.2	49.6	54.6	50.5	46.1	51.3	53.9	49.2	46.6	56.4	55.1	53.4	50.0	53.8	50.8	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3	42.5
鹿行	46.6	50.9	53.9	48.6	48.2	48.1	46.4	49.6	46.9	52.2	50.0	51.7	55.0	56.8	51.3	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2	43.1
県南	48.2	52.7	53.6	48.1	49.1	49.1	48.7	47.5	48.8	50.0	54.2	48.2	51.7	53.5	51.3	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4	39.4
県西	42.7	53.0	50.9	46.9	42.1	51.0	41.8	43.0	47.8	44.4	47.0	47.5	48.3	46.1	52.6	43.4	50.0	42.9	42.1	37.3	42.5
全国	47.8	52.8	52.7	50.0	49.2	46.6	40.8	49.2	50.0	49.3	50.8	50.8	52.2	50.6	50.3	51.0	47.9	48.6	45.8	36.9	45.4(季節調整値)
	46.7	53.4	53.5	49.1	48.2	46.7	41.5	48.5	49.0	49.0	51.5	50.4	51.3	50.1	50.9	50.7	47.0	47.9	46.3	36.7	44.5(原数値)

(参考) 地域別累積DI



III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	商店街代表者	地元の企業が大型工事を受注した。その工事の影響で物の流れが活発になった。
		スーパー	キャッシュレス決済の効果が出ている。
		小売業 (弁当・惣菜店)	消費増税の影響もなく順調な売り上げである。もともと、軽減税率の対象の物を販売しているため、影響は少ないと思っはいた。
		ラーメン店	少し値段の高いものや、もう一品注文する様子が見られる。
		ドライブイン	売店、レストランでの客数、金額、客単価が17~26% (税抜き) 伸びた。
		ゴルフ場	9月時点の来場者実績に比して、12月実績見通しは105ポイントになりそうである。また、女子ゴルフの話題で、ゴルフへの関心が高まっている。
変わらない	企業	製造業 (一般機械器具)	3か月前に比べ、生産量が微増している。
		製造業 (精密機器)	9月よりは仕事が増えている。引き合いも増えている。
変わらない	家計	スーパー	キャッシュレス還元 (5%) 効果が大きく、消費税増税による減少を食い止めている。商品の買い上げ点数も増えている。
		自動車販売店	前年と比較して同水準で推移している。
		小売業 (水産物)	その日その日の食材は購入されているが、余分な買い物や衝動買い等が見られない。
		小売業 (時計)	ネット通販の増加により、ボディブローのように少しずつ効いてきているが、努力してなんとか変わらないように治めたい。
		ラーメン店	今回、台風の被災により、周りが見えない状況である。当社は現状変わらない。
		スナック	この一年間で客数が増えない。
		食堂	常連が段々と足が遠のいている中、40年間通っている方もおり、これからも常連を大切に頑張りようと思った。
		観光型ホテル	宿泊、日帰り共に売上は前年同期と比較して横ばいである。よって、景気は変わらないと判断する。
		旅行代理店	前年同期比で見た場合、3か月前、現在とも同じ実績である。
		タクシー運転手	売上げに変化はない。
		タクシー運転手	県北地域では、人口減少が顕著なため、景気が上向く材料に乏しいと思われる。
		タクシー運転手	スーパーでの買い物において、客足が少ない。
		レジャー施設	特に、例年の状況と変わりがない。
		ゴルフ場	周りの方から目立って売上げ等が良かった話を聞かない。
		ゴルフ場	特に変化がない。
		ボウリング場	12月は団体利用客が多い時期であるが、団体利用客の目立った増加が見られない。個人利用の方についても同様で、増えているという実感が無い。キャッシュレス決済も導入したものの、売上げへの影響は限定的である。
		写真店	記念写真の一回当たりの売上げは伸びているが、自然災害等の影響を受けたイベント自粛等もあり、前回と変わらない状況だと思う。
写真店	例年と同じ。		
住宅販売会社	展示場への来場も、増えも減りもしない。		

変わらない	企業	林業関係者	大きな変化はみられない。
		水産業関係者	変化を感じられない。
		製造業（電気機械器具）	前年と比べて、ほぼ同水準である。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連、原子力関連とも受注や引き合いが少ない状態が継続している。
		製造業（食料品）	生産量は3か月前とは変化ないが、昨年比では減少している。
		製造業（電気機械器具）	3か月前と受注量、受注金額が同等である。
		不動産業	消費税増税の影響は落ちついた感じだが、好転に向かっている様子はみえない。
		情報通信業（情報サービス業）	そのうち悪くなるというのが大方の見解だが、現状では変わっていない。
雇用	求人広告	国体の終了と合わせてさらに景気の落ちを感じるかと覚悟していたが、業種に偏りはあれど募集のニーズは一定量はあると感じる。	
	公共職業安定所	有効求人数の前3か月を見てもあまり変化はしていない。対前年同期を比べると、5.4%減少している。昨年は管内事業所の製造ラインが海外へ移る関係で大量の派遣求人があったためと思われる。	
	求人開拓員	企業からの求人も3か月前と比較してあまり変わらず、求人職種も変化がない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	10月の消費税増税による影響だと思う。駆け込み需要の、家電や自動車などの買い換え出費も影響していると思う。
		スーパー	来店客動向から、購入商品が特売比率に偏り、通常商品の購入がシビアである。また、夕方以降の来店客数も減っており、値引き商品の動きも鈍い。
		コンビニエンスストア	客数が厳しい。来店頻度が落ち込んでいる。消費税増税は少なからず景気の減退に繋がっているように感じる。
		衣料品販売店	来客数が減少している。
		小売業（酒類）	客数、売上げが今までになく減少している。大変厳しい状況である。
		レストラン	県北の景気の話になると、90%悪くなっているように思うと答えてくれる。
		観光型ホテル	台風の影響もあり、客足が途絶えた。
	企業	製造業（食料品）	消費税増税よりも、水害による必要経費増（車の買い換え、リフォーム）により食費や嗜好品への支出を控える動きがある。
製造業（輸送用機械器具）		11月の新車販売は2か月連続でマイナスとなった。10月は消費税増税の反動に加え、台風被害も加わり前年比25%減と大きな落ち込みだった。当分消費税増税の影響が続くものと想定される一方、北米GMの1か月半のストライキ等もあり、生産調整を余儀なくされ、年休促進に加えて残業の大幅減少も発生している状況にある。	
建設業		例年と比較して、見積り件数や受注量は少ないので、ゆるやかに悪くなっていると感じる。	
運輸業		市内の工場の生産計画の縮小、および出荷量の減少が見られる。	
金融業		消費税増税の影響もある中、台風の被災等の影響もあり、製造、卸売、小売、サービス業、全般的に景気はやや後退している印象。	
雇用		学校就業関係者	企業の方との話の内容から判断した。
悪くなっている	家計	酒・各種商品小売業	ひたちなか市でも旧那珂湊地区は会社も少なく公共機関も勝田地区に移り、また、数年前から湊地区の旅館での泊まりでの忘年会も激減した。このほか、飲酒運転も厳しくなったところから、魚市場近くの料理店でのアルコールは激減している。
		タクシー運転手	特に飲食店に来客が無い様子が伺える。
	企業	製造業（化学工業）	取引先、特に購買先からの値上げ要求が多く、人手不足等によるコスト転嫁がその理由となっている。働き方改革が不況の要因の一つと感じる。

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	ペット美容室	季節要因ではあるが、一年間で一番忙しい時期である。これは、この業界全般に当てはまると思う。今年で33年目、東京の店舗にいたときも同じくもっとも忙しい時期であることは同じ。忙しくはあるが、20年前と比べたら売上は半分以下になった。理由としては、同業店・店舗を構えず仕事をしてる個人がものすごく増えたことで顧客が分散していることにある。結果として、現在はスタッフを減らし、その分は事業主である自分が全てをまかっている状態。忙しくはあるが、仕事の量も制限されるので売上が上昇しているとはいづらいのが現状。
	企業	建設業	年末に向けて、客が思っていたことをやろうとして見積り依頼含め、建築リフォーム、塗装工事等の受注が増えている。また、台風による被害で、復旧工事が増えている。屋根、板金、カーポート等、メーカーの対応も忙しく、1か月くらい先まで予定が入らない状況。(季節的な要因というよりも、台風被害、地震被害では建設業は業績は上がると思う。)
やや良くなっている	家計	スーパー	近隣店舗閉店の予見もあるが、客数が微増している。買い上げ金額も変化なく、軽減税率の恩恵はあるが、増税の影響もほとんど無い。
		スーパー	衣料品を中心にした買回り品の売上げは中々伸びてこないが、食料品、飲食店など食べ物の売上げは持ち直してきた。
		レストラン	国体関係の慰労会が入ってきており、前年にはない傾向である。
		割烹料理店	消費税増税に伴い、当店もほぼ全品値上げしたのだが、客の反応は、値上げは当たり前という感じで、客数は減っていない。
企業	農業関係者	周りが農家世帯であり、米等の販売代金の収入があり、3か月前と比較して、景気は良くなっていると思う。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	変化の要因が無い。
		小売業	給与は変わらず、残業が減り所得が減っている。それにも関わらず消費税が増税された。
		レストラン	忘年会時期、ボーナス支給期ということもあり期待していたが、予約の客単価も昨年同様である。傾向として、1組の予約人数が若干少なくなっているように思える。
		都市型ホテル	特に変化が見られない。
		都市型ホテル	忘年会シーズンを迎え、例年比較で同等の状況まで伸びてきたが、良好とまではいかない状況である。
		旅行代理店	台風の影響は多少あったが、その後の来客数や申込み数などは変わっていないと思う。
		バス運転手	消費税増税後の落ち込みや、茨城国体の需要が終了したことの反動があるのではないかと想定していたが、思っていたほどではない。各種イベントに左右されず、従前から消費動向が堅いということの証なのだろうか。
		タクシー会社	一時的には国体関連や災害調査の需要で動きはあったものの、結果として一過性の繁忙期であったことは否めない。景気動向には直接影響が無かったものと思われる。
		タクシー会社	水戸駅・既存顧客の利用に変化はなく、概ね大きな変動なく推移していると判断している。
		ドライブイン	消費税増税によるキャッシュレス還元(5%)に伴い、景気の状態は変わらないが、カード、電子マネーを利用する客は増加した。
		観光名所	3か月前から災害が続き、直接的な被害は無かったものの、観光業としては娯楽の自粛ムードから大きくダメージを受けた。10月の反動で11月は売上げが持ち直したものの、例年に比べても利益は落ちたままとなっている。
		レジャー施設	施設利用者数が、3か月前と同様、前年比で減少しており、景気が悪くなったままという印象がある。
		スーパー銭湯	今秋の相次ぐ台風による被害拡大は、秋の行楽シーズンの賑わいまで吹き飛ばしてしまったような3か月であった気がする。当館は、被害者を見舞う人たちや、天候によりボランティアができなかった人々、風呂に入れない被災者と思われる客や、国体開催による来館者により、前年を上回る入館者ではあったが、消費税増税、台風被害の大きさにより、ムードの暗さから消費の拡大は見られない状況にあり、現在も好転はしていないように思われる。
		レジャー施設	一時値下がりを見せた燃料費が再び上昇したことにより、景気は変わらないと思う。また、10月からの消費税増税の影響はほとんど無いと思われる。
		建築設計事務所	「忙しい割には利益が上がらない」という声をよく聞く。当社も同じで現状維持と言ったところである。
住宅販売会社	来客数が特に変わっていない。購入希望予算額も特に変わっていない。		

企業	製造業（印刷・同関連業）	年末時期は忙しくなるはずが、あまり平常の月と変わらない。
	製造業（金属製品）	業界全体が忙しかった頃に受注した案件を現在こなしているため、今は稼働率も高く、忙しい状況を維持している。
	運輸業（道路貨物運送業）	消費税増税に伴う反動減により、荷動きが活発化する様子は見られない。
	金融業	業種による差はあるものの、全体的に売上高横ばいにて推移している企業が多く、設備及び運転資金においても活発とは思えず、変化は無いと思われる。
雇用	人材派遣業	最近は売上・受注ともほぼ横ばいである。
	公共職業安定所	新規求人数は4か月ぶりに対前年比でマイナスとなり、有効求人数は5か月ぶりに対前年比でマイナスとなった。有効求職者数は78か月連続で対前年比マイナスを更新している。有効求人倍率は7か月連続で対前年比でプラスが続いている。
	学校就業関係者	企業からの求人についての問い合わせが増加している。しかし、求人情報の大学生給与単価については変動がないため、人手不足と雇用の実態とのアンバランス感がある。
	求人開拓員	当就職支援センターの取り扱い求人数に大きな変化は見られない。来館の求職者数は低水準に留まったままであるが、これは主として人材の流動性が下がっていることによるものと思われ、景気動向に起因するものではないと思われる。
家計	商店街代表者	消費税増税に伴う駆け込み需要の反動が影響して、10～11月の売上げが悪かった。
	商店街代表者	消費税に関する駆け込み需要も無く、10月1日以降現在まで買い控えなのか例年より来店客数が減少している。また、売上げも減少している。民間企業事業所からの受注が悪い。
	百貨店	消費税増税後の反動がある。
	スーパー	消費税増税の影響がある。
	スーパー	若年世帯の方々の購入力が下がっているように思う。増税後の客数の伸びがなくなった。
	スーパー	消費税増税や台風被害の影響で、財布の紐は増々堅くなっているようである。お歳暮等の商品の動きも悪い。
	自動車販売店	消費税増税の影響で、10月以降新車販売台数は前年比で落ち込み、来店客も減っている。
	楽器販売	10月以前は前年に比して数%ではあるが上振れしていたものの、その後は減少傾向。9月までも決して駆け込み需要というイメージではなく、停滞感が感じられる。
	観光型ホテル	団体客の減少はここ数年の傾向だが、ここに来て個人客も減少傾向にある。
	タクシー運転手	消費税増税があり、やや客足が遠のいた感じがする。路線バスが非常に多く運行されている現状ではやむを得ない気もする。
ゴルフ場	例年10～12月は来客数がピークを迎えるが、今年は11月をピークに前後の落ち込みを感じる。10月の消費税増税の影響もあるのではないかとと思われる。	
企業	製造業（食料品）	台風被害と消費税増税の影響（特に外食）の両方が感じられる。
	製造業（食料品）	客数は増えているが、このところ、客単価が落ちている。また、賃金上昇により経費増になっている。
	製造業（印刷・同関連業）	日々の営業活動で感じる客の反応や売り上げ状況から見て、やや悪くなっていると思う。
	製造業（一般機械器具）	台風のため、大手メーカーのラインが止まった。そのため、一時的かもしれないが悪くなった。
	製造業（精密機械器具）	売上高で21%の減少だった。ただ、12月の売上げ自体も目標額からそれ程乖離はしていない。
	建設業	以前より停滞感がうかがえる。
	不動産業	増税の影響があるのか、例年と比べると集客数が減ってしまった。
	サービス業（コンサルタント業）	受注が減っているように感じるため、やや悪くなっていると判断した。
雇用	求人広告	仕入れ原価の高騰が多々あり、投資に余裕がない。
家計	百貨店	今月の売上高の前年比と3か月前の売上高の前年比を比べると悪化している。
	理・美容店	客の来店サイクルが長くなり、2か月に1回来店して下さっていた方が、4か月に1度のスパンになっている。
企業	製造業（窯業・土石製品）	全体的に仕事の量が激減している。



(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業	3か月前と比べても、昨年同時期に比べても、客数・客単価が増えている。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	ダウ平均や日経平均が上がっているため、米中の関係性も少しずつ良くなっていると感じる。
		農産物直売所	客単価が少なくなっている。
		観光型ホテル	国体に係る客の人数が少し増えている。
		運転代行	予約を断ることが多い。売上げの数字がやや高くなっている。
		ドライブイン	観光バスの客の来店が多かった。
		住宅販売会社	消費税増税後も会社の業績が上がっている。
	企業	建設業	9月の台風被害でサッシやシャッターが壊れ、修理の件数が増えた。
		保険業	台風15号、大雨、台風19号で多くの損害が発生したが、保険の見直しで契約が増えてきている。
	雇用	求人開拓員	求人をお願いに来る事業所の方の総合的な意見として、10月の消費税増税前の駆け込み需要が個人消費を引き上げたのではないかとのこと。景気が良くなり個人消費意欲が自然に上昇したとは思えない。
	変わらない	家計	スーパー
コンビニエンスストア			変わる要因が無い。
家電販売店			増税後ではあるが、ほぼ前年並みで推移している。
小売業（薬品店）			調剤薬局なので、主な客は患者である。循環器の患者が多く、年齢的にも高齢者だが、余裕のある方が多いのか年末とはいえ変化は無い。
洋食食堂			客数、売上げとも堅調である。
割烹料理店			消費税増税の影響があるのか、カードなどのキャッシュレス決済が増加し、現金がまわらない。
観光型ホテル			予約状況を見ても変わらないと思う。
都市型ホテル			ビジネス客がある。
ゴルフ場			消費税増税の影響が心配されたが、予約推移は前年並み。
ゴルフ場			特に景気の変動があったという感覚は無い。
住宅販売会社			特に変わりがない。
企業		製造業（化学工業）	3か月前と比べると、生産、出荷および在庫も横ばいの状況が続いているので、景気は変わらないと判断する。
		製造業（鉄鋼業）	自動車関係は落ちているが、建築部品はやや良くなっている。
		製造業（食料品）	個人消費の持ち直しは少し感じるものの、消費税の軽減税率などもあり、菓子の売れ行きは変わらない。
		製造業（食料品）	世界経済の不透明感が続いている中で、12月の日銀短観発表によれば、大企業の製造業のDIはゼロで、景況感4期連続の悪化となり、当面景気上昇は見込めない。
		建設業	受注は伸びていると思われるが、人員不足等のため消化出来ないのが現状である。
		運輸業（道路貨物運送業）	実感が無い。
		運輸業（道路貨物運送業）	3か月前と比較すると、若干の業績上昇ではあるが、前年対比は大幅に下降している。
		金融業	3か月前と比較して、横ばいに推移しており、変わらないと判断した。
		不動産業	特に当社では中古建物物件を買上げ、リフォーム等を行い販売しているが、年間通じて取扱数は大体横ばいである。買上げの数などもタイミングがあり、年間を通せば、ほぼ横ばいということである。
雇用	サービス業	全体感としては、米中、日韓の経済摩擦の影響などが取りざたされているが、身近ではそれらの影響についての話は聞こえてこない。	
	火力発電所	販売量に変化は無い。	
民間職業紹介業	民間職業紹介業	求職者（登録者）が相変わらず低迷している。年齢的にも60歳以上の方が多く、求人者（企業）とのマッチングが難しい。	
	学校就業関係者	求人は相変わらず売り手市場で変化はない。	

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	消費税増税前の消費者の消費意欲の伸びから見ると、増税後は幾分減退気味に感じている。
		小売業（菓子類）	今月の前年比と9月の前年比を比べると、今月の前年比がやや悪くなっている。
		小売業（薬品店）	前年と同程度の売上げ水準だが、3か月前は増税前の特需があったので、相対的に景気はやや悪くなっている。
		小売業（食品）	年末にかけての商品がいつもの年より少し減っている。自分以外、他の同業者も同じことを何人か言っていた。
		和食レストラン	10月の消費税増税以降、「外食ではなく、買って帰らないと損」という雰囲気が出ており、駆け込み需要がある業種ではないにも関わらず、明らかに10月に入った途端に来客数が減少した。
		タクシー運転手	現状では、何か月経とうとも景気は良くなる気がする。仕事量は減少し、給料も下がっている状態である。不景気でも給料が現状より安定すれば、生活も安定する。難しいとは思いますが、根本的に変えていく時期にきているのではないかと。
		レジャー施設	商品の問合せ、商談の数が少し減少している。
		理・美容店	10月からの消費税増税によって、家計を考える人が増える。寒くなってくると、髪は伸びている方が暖かいせいもあるかもしれない。
		クリーニング店	やはり消費税増税の影響はある。キャッシュレスのスマホ決済（PayPay）は導入しているが、年配の人が多いため利用が少ない。
		企業	農業関係者
製造業（電気機械器具）	消費税増税、米中、日韓の貿易問題等の影響が大きいのか、少し落ち着いている。		
製造業（鉄鋼業）	世界的経営環境の悪化により、景気は悪化している。		
製造業（金属製品）	中国とアメリカの関税戦争の影響によって、製造業の受注は減少している。自動車部品は、世界的に約10%減少したと言われている。中国向け半導体パーツはかなり厳しいようである。		
不動産業	来客数が少なくなっているように思う。やや悪くなっているような気がするが、台風の関係で大工や板金工などの屋根の修理関係の人は忙しいとのこと。		
雇用	人材派遣業	大手企業の組織再編があり、その影響で仕事が縮小方向にある。	
	公共職業安定所	新規求職者数は微減が続いており、新規求人数は海外景気の変動等により減少している。	
悪くなっている	家計	衣料品販売店	消費税増税で確実に財布の紐が堅くなっている。台風被害の影響も多少ある。
		農産物直売所	軽減税率導入によって、明らかに我々小規模商店（小売業）は売上げが減少した。買い控えもそうだが、客数減が顕著に表れている。年々、年末の特需のようなものもなくなり、大変厳しい状況である。
		小売業（書店）	台風19号関連で、来客数が少なくなったと思う。
		日本料理店	税金が上がり、飲食は今回悪くなる。
企業	製造業（ゴム製品）	注文が減少している。	

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	スーパー	キャッシュレス還元（5%）の影響により、やや良くなっていると判断する。	
		都市型ホテル	消費税も増税され、当初は懸念していたが、特に問題なく人の動きがあったようだった。企業の宴会受注に関してもオンハンドが減少することもなく、景気がやや良くなったかと思われる。	
		都市型ホテル	消費税増税もあるかと思うが、宴会料金の単価が上昇している。	
		タクシー運転手	タクシーを使って買い物に行く人が増えた。	
		ゴルフ場	キャッシュレスで5%還元等も大方浸透してきた感じがする。来場者も多くなり、賑わっている。ただ、これも正月の第一週くらいまでかと思われる。	
	企業	製造業（食料品）	客数及び客単価が良くなっている。	
	雇用	公共職業安定所	新規求職者数は減少している。10月の新規求人数は前年同月と比べて減少しているが、3か月合計では前年より増加している。	
	変わらない	家計	スーパー	売上げ、客数とも変化が見られない。
			小売業（生花店）	県南地区で唯一、つくば市への一極集中が続いており、周辺都市部は変化の兆しが見えない。ただし、国道の拡幅等の工事が始まっており、今後の進展状況に期待がかかる。
			寿司店	来店客がほとんど同じ顔ぶれである。この業種が良くないのだろうか。
都市型ホテル			消費税が10%に増税されたため、通常料金で宿泊する客は電話予約の客がほとんどだが、価格を聞いて断る客が以前より増えてきた。その反面、サイトから安いプランを探し、ポイントやクーポンを利用して予約してくる客がとて多くなった。施設側の売上げは、当然消費税が10%になってからはマイナスである。	
タクシー運転手			以前と変わらず、乗車回数が少ない。特に、土浦駅、つくば駅待機の利用が少ないことから、電車利用の顧客が一向に増えていない様子。このほか、企業関係者の利用は横ばいである。	
タクシー運転手			客が、景気が変わらないと言っていた。	
サービスエリア			平成29年2月の茨城県内圏央道全通に伴い常磐自動車道の交通量は減少傾向にあったが、平成30年6月に外環道が開通したことにより交通量は徐々に微増の傾向にあり、入館者も同様の傾向。各個人の購買意欲は依然高い率を示しており、交通量の増加したエリアにおいては、相応の売上を示していることから、前回同様特段の景気の変化はないと判断した。尚、増税の影響は店によりまちまち。	
ゴルフ場			年末を迎えても、忘年コンペなどの需要が増えない。通常の予約状況と変わらない。	
ボウリング場			消費税増税後に来店客数に影響があると思っていたが、さほどの変化が見られなかった。	
レジャー施設			3か月前と比較して、売上額・入場者数ともに大きな変化が見られない。	
理・美容店		消費税が増税され、キャッシュレス還元が始まってどうなるかと思っていたが、今のところさほど変化は無いと思う。ただし、バーコード決済が増えているので、この先は不透明。		
理・美容店		客が増えていない。		
企業		農業関係者	12月期（初旬まで）の来客数・客単価を今年9月期と比較すると、両者とも若干の減少傾向。ただし、これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。	
		製造業（食料品）	小売は下がっているが、業務用が上がっているため全体で見ると変わらない。	
		製造業（飲料）	特に変化を感じない。	
	製造業（窯業・土石製品）	業績は変わらない。		
	製造業（窯業・土石製品）	受注は順調に推移しているが、生産が間に合わない。繁忙期には派遣社員の増員で対応しているが、それでも人手不足である。		
	建設業	3か月前は台風関係の工事で忙しかったが、その要因を差し引いても、現在の状況はほぼ同じくらいである。よって、景気は変わらないと判断した。		
	不動産業	賃貸に関しては、供給過剰で空室が多い状況。売買に関しては、前回より動きは良くなっている。		
	運輸業（倉庫業）	車両不足と感じる日が少なく、荷主、協力会社との商談も以前と変化を感じられない。		
雇用	不動産業	消費税増税の影響もあまり感じられない。		
	求人広告	特に変化を感じられない。		
	学校就業関係者	業務の関係から、本学に来る企業からの求人数からの判断となるが、3か月前と比較して同程度の求人依頼がある。		

やや悪くなっている	家計	スーパー	客単価、買い上げ率が下降傾向になっている。消費税増税後、予想はしていたが、雑貨品の落ち込みが顕著である。より低単価に移行している。
		農産物直売所	来店客数が減少している。客単価は横ばいである。
		小売業	増税前の駆け込みで前年比6%増え、増税後に6%落ち込み、11月は前年を少し下回る状況。
		ホームセンター	消費税増税後は大幅な客数減に陥っている。
		和食食堂	天候の関係から、やや悪くなっていると判断する。
		日本料理店	10月の来客数が少なかった。消費税増税が関係していると思われる。
		洋食食堂	数年前は、コースが3種類あると、真ん中のコースを選ぶと言われたが、今は一番安いコースを選ぶ方が多い。季節要因を除くのは難しい。季節の行事、四季の変化によって客が来店する。
		タクシー会社	発注の電話がかかってこない。
		テーマパーク職員	消費税の増税に伴い、グループ施設は利用料金の値上げを行った。当施設は12月はまだ料金改定を行っておらず、且つ割引キャンペーン期間だったが、来場者が増えておらず、ファミリー層も3か月前、前年同月と比べると若干減少傾向にあるように感じる。
		設計事務所	資材の値上げが続き、顧客からは回収できないため負担が増加している。
企業	製造業（家具・装備品）	消費税増税で10%になり、高額な商品は売上げが下がり気味という話を他店の方々から聞いた。食堂関係の店はあまり変わらないとのこと。高額商品を扱う業種の方は、やはり売上げがだいぶ落ちているようである。	
	製造業（その他）	受注が無い。	
	製造業（非鉄金属）	台風被害を間接的に受け、生産を抑制している。	
	建設業	新築住宅が減少している。	
	建設業	取引先からの見積もり依頼が少なくなってきた。	
	金融業	運送業者や土木建築業者、飲食業者では引き続き人手不足が続いており、人材確保に苦慮している。その為、売上高は前年並みを維持するも、労務費や材料費が増加しており、利幅は減少傾向にある。	
雇用	人材派遣業	取引先の景気が良くない。	
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	消費税の増税により、来店回数や客単価が減っている。タバコの値上げにより、買い控えが起こっている。
		コンビニエンスストア	消費税増税の煽りを受けて、客数も減り、一回あたりの買い物量も減った。消費税増税のための対応策として実施しているキャッシュレス還元についても未だ認知度が低く、効果が無い。
		小売業（米穀）	12月に入り、トラックの確保が一段と厳しくなってきた。運賃値上げもそうだが、物流業者から一日の取扱数量の厳しい制限を受けている。結果、思うように仕入れができず（早目の確保）、販売数量よりも在庫が増えている。
企業	農業関係者	台風に加えて、収入源である農作物に大きな影響が出ている。	

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	ゴルフ場	消費税が10%に増税したことによる影響も無く、売店の売上げは上がっている。ショッピングモールの混雑状況も3か月前より混み合っている様子。	
		スパ・銭湯	9月～11月の前年比較は伸びている。また、客から、忙しいといった声や、求人をかけても応募が来ないなどの声を聞く。そのような客は来店時間が遅くなっている。	
やや良くなっている	企業	製造業（電気機械器具）	受注量の変動により、一部の部門から人員の増員要請がある。	
		建設業	工事の受注が前年のこの時期に比べ、少し増えているので、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	商店街代表者	消費税関連のニュースで買い控えているのだろうか。	
		商店街代表者	消費税が10%に増税されても、売上げ減にはならなかった。	
		スーパー	単価、点数ともに変化は見られない。	
		家電販売店	消費税増税などはあったが、その反動も考えた上での店舗運営（イベントへの取り組みなど）をしているので、変わらない。	
		農産物直売所	3か月前と比較して、お客様の平均購入数は変わらない。	
		ホームセンター	増税前の特需と増税後の冷え込みの比較のため、判断は難しいが、客数、客単価にあまり変化がないため、景気の変化はないと判断する。	
		レストラン	売上げ的にも昨年と変わらない。	
		和食レストラン	現状としては変わらない。	
		旅行会社	消費税増税後、悪くなるように思っていたが、変わらない印象を受けた。キャッシュレス決済による消費増も考えられるが、業種的には何ら変化はないものと思われる。	
		旅行代理店	景気は悪いままで変わらないと思う。燃料代、特に家庭の灯油も高いままで、他の家庭用品も同じく高いままである。消費税が10%に増税されてからますます感じている。	
		タクシー会社	特に変化を感じない。	
		タクシー運転手	会社関係の人は前回と変わらない。一般の人は公共交通に乗る人がいるので、タクシーの利用が少ない。	
		ドライブイン	家族の勤める会社の話を聞いても、良い話を聞かない。	
		ドライブイン	10月の消費税増税の影響は皆無ではないが、現状は客数・単価ともあまり変化なく推移している。例年通り、年末の慌ただしさは感じるが、消費マインドは相変わらず冷めている。	
		ゴルフ場	予約状況にて、変わらないと判断した。	
		建築設計事務所	提出してあった見積りが少しは決まった。とは言っても、その程度である。	
		企業	畜産業関係者	体感では特に変化が無い。
			製造業（電気機械器具）	消費税増税に伴う消費の落ち込みが懸念されたが、あまり変化は感じられなかった。
			製造業（輸送用機械器具）	輸出用は3か月前と同様。国内は、変化なく堅調。派遣及び期間工の採用を手控えている。
			製造業（化学工業）	市場に大きな変動がない。
製造業（金属製品）	受注数が横ばいである。			
建設業	特に変動を感じないため、変わらないと判断した。			
サービス業（コンサルタント業）	大きな変化は感じられない。			
雇用	人材派遣業	人材の募集が少ない。		
	学校就業関係者	昨年同様、求人企業数は多く、就職内定も良い。		
	求人開拓員	管内の求人動向に特段の変化がみられない。		

やや悪くなっている	家計	スーパー	消費税増税の影響はあまりないが、特売の曜日で大きく変化し、客単価が下がっている。
		コンビニエンスストア	今月の前月比と3か月前の前年比を比べると、悪くなっている。10月の消費税増税の影響は大きいと思う。
		コンビニエンスストア	10月の消費税増税以降、客数が減少し、売上げも鈍化傾向にあると思う。ただし、製造業や運輸業の方を中心に、増税後もタバコの購入に変化は見られないため、客単価は今月の前年比と3か月前の前年比を比べ、今月の前年比の伸び率が良くなっていると認識する。
		衣料品販売店	来店客数は減少し、必要な物以外買わない。
		ラーメン店	客数が減少した。
		都市型ホテル	消費税増税により、客が減少している。
		タクシー運転手	3か月前と比較して、今月は年末ということもあり売上げも若干増加しているが、昨年同期比ではかなりの売上げ減少となっている。
		レジャー施設	商品の動きが悪くなっている。
		理・美容店	消費税増税が影響しているようだ。さらに来店サイクルが伸びている。
		商店街代表者	天候不順や消費税の増税により、全般的に景気の盛り上がりには欠けている。
住宅販売会社	総合展示場の来場者数について、消費税増税の10月以降、減少傾向が顕著になっている。		
企業	農業関係者	台風による災害や青果物出荷減のため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（窯業・土石製品）	燃料費の増加や作業工数の増加等に伴い、採算が悪化してきている。	
	製造業（印刷・同関連業）	消費税の増税の影響が出ている。	
	製造業（窯業・土石製品）	受注残の減少がある。	
	製造業（金属製品）	自動車関連は悪いという話を耳にする。	
	金融業	消費税増税による消費の落ち込みや、米中貿易摩擦の影響が響き、業績が悪化している企業が目立つ。	
	不動産業	直近数か月で前年割れが続いている。	
雇用	公共職業安定所	業務上、求人受理をしているが、件数の減少があらわれている。	
悪くなっている	家計	自動車販売店	消費税増税後、来客数が減少している。
		製茶販売	自営の収入だけでは苦しいため、スーパーでパートを始めた。客の買い物の内容は広告に出ている安いものだけだったり、ポイントが倍になる曜日に集中したりと皆生活が苦しいのが伺える。
		日本料理店	景気も悪く、町全体が人通りもなく、北口南口共淋しい限りです。酒も飲めないし、忘年会等も少なくなっている。子供達もお好み焼き等、サークル等で来ること少ない。商店等も廃業して、昔の活気が見られない町である。
		クリーニング店	消費税増税、PayPayなどのキャッシュレスのポイント還元などもあるが、全体としては消費は低下していると思う。
		企業	製造業（窯業・土石製品）
雇用	求人広告	掲載企業の売上低下が影響し、明らかに求人の仕事が減っている。景気の良い話をする企業は全く無くなった。	

III 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	商店街代表者	現在受注している工事が順調に消化され、関連する地元業者が潤う。
		スーパー	客単価がやや上昇しているため、やや良くなっていると判断する。
		スーパー	来年5月までは販売点数や客単価の増加を予想している。ただし、衣料系は実用品中心に動くと予想している。外食は厳しいかもしれない。
		ラーメン店	来店客数が増加してきている。
		ゴルフ場	オリンピック特需の話が多く出ている。
		ゴルフ場	1~3月の予約実績で、前年比+10ポイントの流れにある。また、生涯健康への関心が高まり、予約ペースが良くなっている。
		住宅販売会社	住宅の税制や補助金等が締め切りになるので、少し良くなるのではないかと。
企業	林業関係者	大型の製材業社では荷不足気味なところであり、多くの買い入れに期待。	
変わらない	家計	スーパー	食品に関して、景気が良くなる要素が無く、家庭内で節約をしやすいの食品であるため、変わらないと判断する。
		自動車販売店	10月の増税後の影響も軽微であり、前年とほぼ変わらない水準で推移しているため、今後3か月も前年同様に進捗すると思われる。
		小売業（弁当・惣菜店）	例年の通りの季節的な変動はあると思うが、大きな変動があるとは思えない。
		小売業（酒類）	今後も悪い状況は変わらないと思う。地域の小売、飲食店などで、景気が良いという話をしばらく聞いていない。むしろ悪くなっているという話が多い。
		小売業（水産物）	地域の客も観光客も購入単価が伸びない。
		小売業（時計）	外国のある大統領の発言で、世界情勢が大きく変化して（良くも悪くも）そのサイクルが短いので安心は出来ないが、変わらないと判断する。
		レストラン	消費税が増税され、当店の金額を上げたので、今のままを祈りたい。
		ラーメン店	先が見えない。
		スナック	今後良くなると思えない人が多い。基本的な生活費以外に使うのをためらう人が多いと思う。
		食堂	子どもの入学などで出費が大きくなるかと話している。コンビニでも、昔のように弁当を買わず、パンと飲み物、おにぎり2個で済ませるといった客が多いと聞いた。
		観光型ホテル	今の状態から考えても良くなる兆しが見つかからない。
		観光型ホテル	宿泊、日帰り共に売上げは前年同期と比較して横ばいである。よって、景気は変わらないと判断する。
		旅行代理店	3か月先の受注状況は、ほぼ前年並で良くも悪くもなく、今後も大きな変化は見込めない。
		タクシー運転手	大手企業の残業規制が強くなり、残業手当などの収入減で客も大変だという声が多々聞こえてくる。現状維持が精一杯かと思われる。
		タクシー運転手	地元企業の事業譲渡の話で、人口減少など不安な風潮がある。また、地元企業の営業不振が見られる。
		ドライブイン	今は12月ということもあり、年末の買い物が増加しているが、3か月後の年度末は消費は伸びそうもない。
		レジャー施設	消費税率の引き上げに伴い、景気はやや後退すると想定していたが、ポイント還元等の政府の施策により、例年とほぼ変わらず現状を維持している状況が続いている。
		ゴルフ場	大きく変わる要因が見当たらない。
		ボウリング場	団体、個人利用ともに、大きく伸びる要素が年度末の時期に当たるという点以外に見当たらない。消費税増税の影響が大きくなければ、例年並みの来店客数を見込んでいる。
		写真店	消費税は増税したものの、ポイント還元により、消費率は下がったようには見えない。
写真店	何も変化が無い。		
企業	水産業関係者	要因がない。	
	製造業（電気機械器具）	製造業を取り巻く環境が厳しい。温暖化問題を国が今後どうしていくかによる。	
	製造業（電気機械器具）	前年と比べて、ほぼ同水準の見込みである。	
	製造業（食料品）	食品は消費税が8%なのであまり影響は受けないが、春以降は他の10%の消費税の影響が次第に出てくるのではないかと。	
	製造業（一般機械器具）	現状の改善を進めているが、効果が出るまでには時間が掛かるため、3か月後は変わらない状況。	
	製造業（輸送用機械器具）	車の販売数量が多い北米・中国・インドにおいて売れ行きが減少しており、全世界的に販売が鈍化傾向に入っているようである。電動化や自動運転等による購買意欲が大きく湧くような新製品の出現に期待したい。	
	建設業	先行きは見積り、受注とも増加見込みなので、やや良くなると思うが、判断としては変わらないとした。	
	不動産業	顧客の問い合わせや商談が増えているわけではないので、3か月後の受注や売上げにつながりにくい。	
雇用	情報通信業（情報サービス業）	ある程度の受注が見えている。	
	公共職業安定所	新規求人数（11月）は前年に比べて約19%減少しており、前年同月で見ると17.7%減少した。事業所からは、以前に比べて仕事量も落ち着いてきたとの声はあるが、現状においては大きな変動は無いと思われる。	
	求人开拓員	やや悪くなりそうだが、令和初のお正月を迎えることもあり、期待をこめて変わらないと判断する。	

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	良くなる要素が見あたらない。プレミアム商品券も不調なので、消費マインドが低下しているのだろう。
		酒・各種商品小売業	街が過疎化していて、店も後を継がせることが出来ず、若い人は町を離れる割合が高い。地震の影響もある。
		コンビニエンスストア	この先の3か月に景気に与える大きな変化は思い当たらない。
		衣料品販売店	中心の客層が高齢化しているので、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（食料品）	水害による復旧経費使用後は各家庭ともしばらくは緊縮する。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連は、米中の貿易摩擦の影響で更に悪化すると考える。
		製造業（電気機械器具）	例年通りではあるが、メイン製品が年度末にかけ落ち込む。
		運輸業	市内の工場の生産計画の縮小、および出荷量の減少が見られる。
	雇用	金融業	消費税増税や米中の貿易摩擦等、経済の先行きが不透明な中、資材高騰や人材不足等様々なマイナス要因があり、収益を圧迫される状況から景気は後退していくものと思料される。
		求人広告	消費税増税や最低賃金の上昇の負の影響を各企業や店舗が実感してくるのは年が明けてからだと思う。
悪	学校就業関係者	企業の方との話の内容から判断した。	
	家計	タクシー運転手	色々なことの積み重ねにより、お金を使うことを控えると思う。
	企業	製造業（化学工業）	一段の景気対策がない限り、景気は悪くなる一方である。



(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良	家計	割烹料理店	無駄遣いではなく、蓄えを増やすよりも、自分のためにお金を使う人たちが増えているような気がする。
		製造業(食料品)	商品の新規導入、リストラ等を実施し、結果が出る予定である。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	来年のオリンピックに期待したい。
		製造業(精密機械器具)	数件の大物製品受注残が、製品化された後、売上げに繋がる事が予測される。
変わらない	家計	不動産業	2, 3月には、新築等の引き渡しが続く、集客が見込めるため、やや良くなると予想する。
		商店街代表者	消費税増税の影響は一時的で、少しずつだが例年通りに戻ってきている。
		商店街代表者	原材料の仕入れや機械の修理は東京に依頼しているため、材料費や加工費、修理費の人件費が2割ほど高騰している。しかし、水戸の人件費や購買力がそれほど無く、消費税10%になったことに理解をいただける消費者と理解いただけない消費者がいる。来年や来年度からの値上げ交渉が始まっているが、平成31年度のままお願いしたいと言われるところが多い。値上げをお願いしたいと言うと、なぜ値上げをするのかと質問される。
		スーパー	3か月くらいでは、変化はないと思う。
		スーパー	良くなる要素が無いので、しばらく低調な状況が続くと思う。
		スーパー	特に大きな予見は無く、客数や客単価、販売点数に大きな変化が見られない。
		スーパー	退店により空区画が増えたので買い物できる場所が減った。
		コンビニエンスストア	変化の要因が無い。
		自動車販売店	10月以降、売上げ、利益ともに減少しており、この先もしばらく続くと思われる。
		楽器販売	これまでと同じように低迷期が続く印象である。消費税増税の影響があったかどうかは、それ程の認識はない。当社ではキャッシュレスキャンペーンには全く乗っかっていない。〇〇payが多すぎて対応出来ないし、決済手数料の負担が経営を圧迫するので、推奨できない状況である。その辺りが影響するのかわからないが、良い状況ではないかと感じる。
		レストラン	令和2年目の年になるが、あまり期待はできないように思える。新年会等の予約の動きを見ても、大きな変化は無い。
		レストラン	県内行事も一段落し、通常程度の受注状況である。
		都市型ホテル	特に変化が見られない。
		バス運転手	消費税増税後の落ち込みや、茨城国体の需要が終了したことの反動があるのではないかと想定していたが、思っていたほどではない。
		タクシー運転手	一番節約する傾向にあるタクシー乗車は、やや悪くなっている状況を3か月先も引きずっている気がする。オリンピックイヤーだけに、華やいだ気分になれば少し違った形になるかもしれないと期待する。
		ドライブイン	景気が良くなる要因が今のところ見当たらない。
		レジャー施設	現在の状況が好転するような、特徴的な動きが予想できない。
		ゴルフ場	アメリカ、中国、EUの景気減速懸念の状況から、当面の改善は期待できないと思われる。
		スパ・銭湯	今年も長期の正月休暇及び令和の初めての正月となり、賑わいを見せるものと期待はしているが、度重なる長期休暇が続きすぎていることなどから、期待は薄いのではないかと危惧する気持ちもある。長期休暇が終わってからの落ち込みは今回もあるのではないかとと思われることから、変わらないと判断する。
	レジャー施設	今後の原油市況次第だが、先行き不透明なことから、3か月先も変わらないと思われる。	
理・美容店	客の来店サイクルが長くなっているほか、パーマ客が相変わらず少なく、カラーは2度に1度は自分で染めている。		
建築設計事務所	人手不足解消や働き方改革への挑戦と難しい課題を抱えている中、これと言った起爆剤が見えない。現状のままと感じられる。		
企業	製造業(食料品)	増税影響はまだ続きそう。他の良くなる要因も見当たらない。	
	建設業	特段良くなる空気感が無い。	
	運輸業(道路貨物運送業)	米中貿易摩擦の動向にもよるが、現状と大きく変わらないと思われる。	
	金融業	各業種の顧客からのヒヤリングにおいても、好転する案件は見当たらず、景気は現状と変化無く推移すると思われる。	
	建設業	来年3月までは、復旧工事で忙しいと思われる。農家の方等もハウス、倉庫の復旧が大変だと言っていた。	
	サービス業(コンサルタント業)	受注に変化が無さそうなので、変わらないと判断する。	
雇用	学校就業関係者	10月以降も求人が一定数あり昨年と比べて大きな変化は無いが、業種によっては採用を抑える企業も出てきた。現時点では何ともいえないが、今後注視が必要。	
	求人开拓員	世界経済、国内経済ともに景気上昇のエンジンとなるものは見当たらず、むしろ世界経済において不安定要素はあるものの、国内経済の耐性は思いのほか強く、これらをあわせて考えれば、景気は横ばいと思われる。	

やや悪くなっている	家計	百貨店	消費税増税や災害などを背景に、全体的な消費マインドの低迷が継続し、年度末に向けて更なる悪化が想定される。
		百貨店	前回の消費税増税での反動は半年以上続いた。同様に、今回の消費税増税での反動も半年以上続くのではないかと考えている。
		スーパー	昨今の景気の見通しのニュースが悪い方向になっている。大手携帯キャリアなど、日本を牽引する企業が揃って赤字になっていることなどで消費者の印象が悪すぎる。
		小売業	税金に対する考え方が間違っている。国民から預かっている税金は1円たりとも無駄に使用してはならない。こういった意識が大切。
		都市型ホテル	年明けは、現在の予約状況では過去数年比較で一番悪い状況で、この後若干は伸びると思われるが、現状より厳しいと予想される。
		観光型ホテル	消費税増税の景気対策はレジャー関係には波及しにくいと思う。
		旅行代理店	東京オリンピックを前に消費が多少鈍るのではないかなと思う。
		タクシー会社	消費税の増税は、多少なりとも停滞感の一つの要因になっているのではないかなと思われる。特に、高齢者の行動にブレーキが掛かってしまうと、仕事量が目減りする。
		タクシー会社	法人顧客・個人顧客の利用が多少減少傾向に動くかと予想している。県外からの予約客に減少が見られるので、景気は下降傾向になると判断する。
		観光名所	10月から消費税が増税され、同時にキャッシュレス還元も始まったので、キャッシュレスの利用は大きく増加した。しかし、思うように外国人のキャッシュレス利用も増えてなく、消費税増税の影響が出てくるのではないかな。
		ペット美容室	安倍政権の政策により、消費税増税に併い、5%キャッシュレス還元になっているが、来年6月までの期間限定。やり方がズルい。誤魔化しの政治としか言いようがない。来年は波乱がありそうなので景気が不安定になる気がする。
		住宅販売会社	消費税増税で来客数減となっていくと思う。
企業	農業関係者	農閑期となって農作物等の出荷も少なくなり、収入は減少すると思う。	
	製造業(印刷・同関連業)	他社との価格競争が続いており、仕事確保が厳しい状況が続くと予想される。	
	製造業(一般機械器具)	全体的に悪くなってきている。	
雇用	人材派遣業	同一労働・同一賃金により、人材サービス事業はより厳しくなっていく。	
	求人広告	既存事業の維持で精一杯で、新しいことができない。	
	公共職業安定所	3月に事業所閉鎖、規模縮小する事業所からの相談がある。台風による浸水被害以外の雇用調整助成金の申請事業所があり、また、これから提出を考えているところもある。	
悪	企業	製造業(窯業・土石製品)	年末にかけ仕事の量が激減しており、例年1月と2月は仕事の量が少ない。
		製造業(金属製品)	急激に引き合いや見積もりが減ってきた。夏までは仕事が確保できているが、フル稼働には程遠く、今受注がないと来年の稼働率はかなり落ち込んでしまう。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	小売業（菓子類）	消費税増税の影響が小さくなり、今月よりやや良くなっていると思う。
		小売業（薬品店）	10月の消費税増税の影響がなくなっていくと思われるので、3か月後はやや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	合宿や工場の定期修理工事の利用者がある。
		ドライブイン	農産物（いちご）の出荷が始まり、県外からの来客数が増える。
		住宅販売会社	業績が下がるイメージが湧かない。
	企業	製造業（電気機械器具）	国内生産への回帰が少し感じられる。また、新規引き合いも増加している。
		運輸業（道路貨物運送業）	対中国との関係が業績に反映する傾向にあり、米中の貿易摩擦が緩和すれば若干の上昇は期待できる。
		保険業	新築住宅や車両の買い替えが出てきている。
変わらない	家計	商店街代表者	消費税増税により景気の低迷感を感じている。政府の施策であるキャッシュレス還元事業等により消費・購買はお得感が感じられるが、結局、全体的に落ち込んでいく感じがあるので、差し引くと今後もあまり変わらないのではと料する。
		スーパー	来客数がほぼ前年並み。一品単価、客単価はやや微増しているが、売上高もほぼ前年並みで推移している。このことから、3か月先は変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	変わる要因が無い。
		家電販売店	前年並みで推移する想定である。
		小売業（薬品店）	高齢の方の病気は、高血圧、糖尿病、心臓疾患が主であり、ずっと飲み続ける患者がほとんどなので、変化はあまりないと思う。
		小売業（食品）	正直、前が見えない。動きが悪い。
		和食レストラン	10月当初は大幅に落ちこんだものの、徐々に元の水準には戻りつつある。
		洋食食堂	大きな売上げの増減は無いと思う。消費税の増税後も、前年比で10月100.7%、11月100.9%の売上げだった。
		割烹料理店	料理などの予算において、消費税の増税分が食い込んできて、売上げが上がらない。
		観光型ホテル	先の予約状況を見ても変わらないと思う。
		運転代行	売上げについては変わらないと思う。
		タクシー運転手	得意先もあまりタクシーを利用しなくなっている。個々人の水準上昇を図り、また、景気・不景気関係なくサービス向上を図る。そうすれば、徐々に景気は上向いていくのではないか。
		ゴルフ場	特段変化が出てくるようには感じない。
	住宅販売会社	変わる要因がない。	
	企業	製造業（化学工業）	生産、出荷も計画通りに推移し、在庫も横ばいの状態にあり、3か月先もこの傾向が続くと思われるので、景気は変わらないと判断する。
		製造業（鉄鋼業）	この先、受注量の変化はないので、変わらないと思う。
製造業（食料品）		国内個人消費は菓子において変わらない。インバウンドの消費上振れも一部にはあるが、我々の経済環境では変わらない。	
製造業（食料品）		10月からの消費税増税については、政府のきめ細かい対応もあり、景気の落ち込みは避けられたと思えるが、かといって上昇は見込めず、現状維持が続くのではないか。	
製造業（ゴム製品）		3か月発注見込みが取引先より届いている。	
建設業		人手不足が解消される目途は立っていないので、これから先の問題は山積みだと思う。	
建設業		3か月後には台風の修理が終わっている。	
金融業		現状と変化なく推移するものと思われ、変わらないと判断する。	
不動産業		買い上げの数などはタイミングがあり、今年は雨が長く続いていたため、工事が進行しなかった。チャンスは大方増えているようだが、全体的には横ばいというところか。	
サービス業		現時点で大きな変化がある気配がない、あるとすればオリンピック前後になるのではという話は出てくる。	
雇用	火力発電所	受注量に変化は無い。	
	民間職業紹介業	求職者（登録者）が相変わらず低迷している。年齢的にも60歳以上の方が多く、求人者（企業）とのマッチングが難しい。現在のこのような状況が急に変わることはない。	
		学校就業関係者	建設業種は台風の影響でさらに人手不足が深刻になっている。人材確保の厳しい状況が続くと思われる。

やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	エリアや地区で一日40人客数が減少している。12月の売上げ前年比も地区で98%と悪いことから、景気が良くないのではないかと感じる。
		衣料品販売店	今の流れ、消費者の雰囲気ですぐに景気が良くなるとは思えない。
		農産物直売所	消費税増税の影響も、今より少しは落ち着きつつあると思う。しかし、依然景気が良くなる要素を見つけることができない。オリンピックがある年だが、地方の小さなお店にとっては逆にマイナス（開催期間は特に）だと思われる。
		農産物直売所	増税により、軽減税率はあるが、食品の購買に影響は出ていると思う。
		ゴルフ場	消費税増税の影響からか、予約進捗状況がやや弱めである。
		レジャー施設	消費税が増税され、また、来年主力商品の値上げがあり、客の購買意欲が低下すると思う。
		理・美容店	若い方がいない。高校を卒業すると出ていってしまう。お年寄りばかりのような現在、亡くなったり、ホームに行ったりする人が多く、どんどん客数は減少している。
		クリーニング店	他店で軽減税率で8%の商品も本体価格が値上がりしている。全体的に10%になっているので買い控えている。
	企業	農業関係者	今後、台風による農産物や農業施設の甚大な被害の影響は長期間続くものと思われることから、あまり景気は良くなっていかないと思われる。
		製造業（鉄鋼業）	景気は悪い方向で推移するのではと感じている。
製造業（金属製品）		自動車部品メーカーの通達によると、年明けからさらに発注は減少すると連絡が入った。各メーカーは販売不振によって生産台数をおさえるようである。	
運輸業（道路貨物運送業）		通商問題から、やや悪くなっていると判断する。	
不動産業		増税により、今よりも好景気は見込めないと考える。	
雇用	公共職業安定所	求職者数、求人数ともに減少が見込まれる。	
	求人開拓員	消費税の値上げの反動等に加え、台風等の影響で様々な食品（野菜やコメ等）が値上がり、食品加工の事業所などでは材料が入らなくて困っているとのこと。また、工場や家屋等の被害が重なり、保険等で保障されるもの以外はかなりのマイナスが予測されるとのこと。このほか、近々の方々も自宅の改修や、リフォーム等を考えている方も多いものの、職人と材料等の手配がつかないとのこと。	
悪	家計	小売業	特別な要因がない。
		小売業（書店）	少子化の影響があり、学生の来店が少なくなっている。
		日本料理店	倒産や閉店の話は聞くが、出店やニューオープンなどは聞かない。
雇用	人材派遣業	大手企業の再編に合わせて、法改正による同一労働同一賃金の取り組みで契約の減少が想定される。	

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	今よりもキャッシュレス還元が進んでいると思う。また、可処分所得の整理が落ち着いて、自身の自由に使える金額がはっきりする。これらから、やや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	歓送迎会の問い合わせが多数入ってきている。オリンピックの影響で、都内のホテルの予約が取れず、茨城に逃げてきている様子を感じる。
		タクシー運転手	増税の影響を感じない。
		理・美容店	キャッシュレス還元により、来年6月までは少し良くなると思う。ただし、国民全員がキャッシュレスでの決済方法を選択するわけではないので、キャッシュレス決済選択者が増えてくればの話である。
企業	製造業(非鉄金属)	サプライチェーンが回復すれば良くなると思う。	
変わらない	家計	スーパー	客数の増減があまりない。
		スーパー	さらに良くなる要素が無い。
		スーパー	上向きになる予見が特に見当たらず、今の傾向が続くと思われる。
		農産物直売所	景気に対する不安材料として、農作物の生産量の減少と品質の低下があり、3か月先の景気の右肩上がりは期待できない。無理である。
		ホームセンター	消費税増税による客数減の傾向は、3か月先も回復しないと思われる。
		洋食食堂	予約状況から、変わらないと判断する。
		都市型ホテル	現在3か月先オンハンド状況からは、昨年とあまり変わらないので変わらないと判断する。宴席、宿泊客の予約も同様である。
		タクシー運転手	消費向上が見られない。市内に活気が感じられない。人通りが少ない。
		タクシー運転手	変わる要素がない。
		ゴルフ場	季節要因が大きい業種であるが、例年冬季は積雪などが無い限り、安定して集客がある。
		ゴルフ場	現在の様子をやや良くなっていると判断すると、周りの状況を見てもそれより良くなる要因は見当たらない。
		ボウリング場	仕事関係や客の様子を見ても景気の変動に繋がるような流れが感じ取れない。
		レジャー施設	現在のお客の様子からは、特に3か月先に景気に変化するとは予想できない。
		企業	農業関係者
製造業(食料品)	特に景気に対する大きな要因はないようである。		
製造業(窯業・土石製品)	人手不足は今後も続くと思われる。		
製造業(一般機械器具)	変わるような材料がない。		
建設業	工事は今も昨年同様忙しい。3か月先も、工事発注は昨年と変わらないと思う。限られた人数でやっているため、景気はこのまま変わらないと判断する。		
不動産業	状況が変わるような材料が見当たらない。		
運輸業(倉庫業)	既存の荷主の変化は見込めず、新規案件も一過性の動きと思える。		
雇用	求人広告	担当エリアで顧客と接する上で、変化する要因がない。	
	学校就業関係者	企業の採用が引き続き積極的に行われると考えられる。	
やや悪くなっている	家計	小売業	一人あたりの客単価が下降傾向であり、ファストファッションなど単価の低い商材は横ばいで、付加価値の高い商材などが低調である。
		小売業(生花店)	多重課税である消費税の影響で、食料品等を除く消費は落ち込む方向へ進むと思う。働き方改革で、零細企業や小売りは疲弊しており、今後、業種間の垣根がなくなり集約と淘汰が進むと思われる。小売りは後継者不足とショッピングモール等の進出で減少し、大手間競争と寡占に向かうのではないかと。
		サービスエリア	常磐自動車道においては、交通量や入館者数の変動が今後も生じるものと想定される。また、現在大きな影響は見られないが、増税により個人消費は減少傾向になると思われる。
		テーマパーク職員	増税後、当施設のような体験型のレジャー施設は料金が値上がりしている傾向にある。今後3か月くらいは「体験」にお金を支払うことについて少し料金が高いと感じる傾向が続くように感じる。日用品の購入などの消費に抵抗はないが、レジャーや体験系は、少し抵抗を感じられているような気がする。
		設計事務所	人手不足で仕事が進まない。
	企業	製造業(食料品)	小売の客の動向が分からない。
		製造業(家具・装備品)	今回の消費税増税は、前回の増税(5%→8%)の時よりも消費者が慣れるまでに時間がかかると思う。
		製造業(その他)	現在も普段より受注が無く、3か月先の受注もあるか分からない。新規案件の話も無い。
		製造業(窯業・土石製品)	消費税増税による反動。
		金融業	中国景気の減速感が強まっており、地元大手企業の受注減少により、先行きが不透明な状況で、派遣社員の派遣人数が減少傾向にある。また、消費税増税の影響で、消費意欲が低下傾向にある。
不動産業	土地の売買高も減少傾向にある。		
雇用	人材派遣業	自動車関連や対中韓の影響で、生産量の減少や輸出量が不透明。	
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	増税により、増々悪くなっていく。
		小売業(米穀)	12月は、一年で一番の繁忙期。それよりも忙しくなることは考えにくい。(来春の仕入れも不確定である。)
		都市型ホテル	消費税が10%に増税されてから客足が減ってきているのだから、この傾向は当分続くことと予測している。客が経費を節約して安い施設や安いプランを選んで宿泊しているのだから、施設側は価格競争に巻き込まれ、稼働を維持するために高く売るはずが、むしろ安く売ってしまうだろう。増税は景気回復どころか不景気感が広がっていくと思う。
		理・美容店	健康保険の保険料が上がる。
		企業	農業関係者
建設業	大型物件がなく、また、材料屋に聞いたところ見積関係が薄いとのこと。		
建設業	取引先の社長の方々との話で、引き合いが少なくなっているとのこと。		

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	年度末になり、消費の上昇を望めるだろうか。	
		家電販売店	自国でオリンピックが開催されるので、テレビ・レコーダーなどの買い替え需要が期待できる。	
		自動車販売店	例年1月～3月は販売台数が上昇するため、期待するところ。	
		ラーメン店	消費税増税に伴い、値上げを行った。その価格に客が慣れてくれると期待している。	
		レジャー施設	オリンピックが近づき、多少なり好材料となる期待。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	中国の春節や、その他の外的要因で良くなると思う。本当は内部要因で良くなりたいたいのだが。	
		建設業	工事の受注が少し増えたことで景気が良くなるとは言えないが、前期よりは良くなっていると思う。	
	雇用	求人開拓員	米中の貿易摩擦が解決の方向に向いているようなので、今後景気全般が上向くのではないかと。	
	変わらない	家計	スーパー	商談等の情報等でも大きな変化を感じない。
			コンビニエンスストア	人手不足による業務効率の悪化、人材募集・採用費の高騰、並びに原材料費の高騰などの諸条件は変わる見通しが無く、収益が減少傾向の状態は続くと思う。
衣料品販売店			これ以上悪くならないと思うが、良くなるとも思えない。	
農産物直売所			若干ではあるものの、青果物の価格が上昇すると見込んでいるが、急激な景気回復につながるとは思えない。	
旅行会社			キャッシュレス決済による消費増も考えられるが、業種的には何ら変化はないものと思われる。	
タクシー会社			変化を感じない。	
ドライブイン			客の話からも厳しい話しか聞かない。	
ゴルフ場			予約状況にて、変わらないと判断する。	
ゴルフ場			ゴルフ場の予約状況は昨年より5%程度良いが、今月がやや良い状況なので同程度の推移と判断している。	
理・美容店			良くなる要素が見つからない。	
商店街代表者		令和に改元して初めての新春を迎えるが、例年と比べ異常な天候に見舞われているので、一部の業種を除いては、現状維持ができれば良いのではないだろうか。		
建築設計事務所		肌で感じるほどの景気の上昇がある時代ではないだろう。		
住宅販売会社		年明けの来場で景気の波が想定できると考える。		
企業		農業関係者	投資等減少している。	
		製造業（窯業・土石製品）	工作機械の輸出等を行なっている取引先からの受注が伸び悩み、収益率の増加が見込めない。	
	製造業（電気機械器具）	景気を左右するような好材料も懸念材料も見当たらない。		
	製造業（印刷・同関連業）	印刷単価の下落が止まらない。材料費、人件費が上がっているが、印刷単価は下がっている。		
	製造業（輸送用機械器具）	増産の見込みが立っていない。		
	製造業（窯業・土石製品）	良化の兆しが見えない。		
	製造業（金属製品）	良い話が聞こえてこない。		
	製造業（金属製品）	長期的な受注数は変わらない。		
	製造業（電気機械器具）	長期的な変動予測は難しいが、この状況は当面続くと見込む。		
	建設業	特に変動を感じないため、変わらないと判断する。		
金融業	景気回復が見込まれる要因に乏しく、同様に推移していくものと考えられる。			
	サービス業（コンサルタント業）	圏央道境インターチェンジ付近で工業団地の造成工事が始まり、賑わいは感じるが、工事業者等は全て他県業者のようで地元ではないため、大きな変化はないと思う。		

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	医療費負担20%の話題が年配者間で出始めている。消費を抑えるムードになるのではと思った。
		スーパー	人口の減少、少子化、自然災害、年金等に不安があり、必要以上の買い物はしないと思う。
		コンビニエンスストア	消費税増税後の前年比が悪くなっているので、今後3か月先も同様の傾向と考える。
		ホームセンター	商品原価は値上げ傾向にあるが、売価には反映されにくいいため、利益率は減少傾向になり、やや景気は悪くなると予測。
		レストラン	マスコミ等の景気の判断は停滞または後退と言っているの、やはり悪くなっていくのかと思っている。
		日本料理店	人件費（時給）も上げ、従業員も不足してきている。労務局も8時間労働を強く言っているの、長い時間働かせられないし、人件費も上がり苦しい現状である。2か月続けて赤字になった。筑西市でも、町の活性化をもう少し考えてほしい。何しろ淋しい限りだ。私たちは努力している。
		和食レストラン	年末年始に宴会や大人数の予約が多いので、春先はやや悪くなっていると思う。
		都市型ホテル	良くなる要因が特にならない。
		旅行代理店	寒さが肌にしみわたる頃は、もっと不景気になるだろうと思う。じっとこたつに入って、昼寝する像が浮かぶ。不景気と寒さで凍え死にしようとするような感じである。初春の新年に期待する。寺院などに、初詣などのお願い参拝ツアーをたくさん計画し、少しでも皆様に喜んでいただくように計画する。
		タクシー運転手	企業の人の忘年会も一次会で終わり、二次会がない会社が多いとのこと。
		ドライブイン	景気回復につながる要因が見当たらず、原材料費、人件費の高騰が続いており、先行きの不安感もあり厳しいと感じられる。
		スーパー銭湯	原油の高騰、電気料金の値上げ、設備管理コスト・食材に至るまで値上げ傾向。収支としては厳しい。
企業	畜産関係者	情勢を鑑みて、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（化学工業）	季節要因となるが、需要が若干弱含み。	
	不動産業	直近数か月で取引数が前年比で下降気味である。この傾向が続くならば、やや悪い方向へ向かっているように感じる。	
雇用	求人広告	製造業の企業は半年先の受注予定が不安定とのことだった。住宅関連企業も、展示場の来店が昨年と比べて減っており、今後の受注も苦しい環境が続くと話していた。	
	学校就業関係者	求人企業数は多いが、紹介できる生徒が少ない。製造業の人手不足が深刻化していると思われる。	
悪	家計	製茶販売	良くなる要因が何もない。消費税が増税されたが給料は変わらない上、日本の中で10月に少し上がったものの茨城県の最低賃金は未だ最下位なのではないか。
		タクシー運転手	連休が増えたため、収入が減った人が多くなり、外出を控える傾向にある。このため、夜に飲みに行く人もなくなり、今後の売上げは悪くなる一方である。
		クリーニング店	今のところ、これから良くなるような材料などは見受けられない。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	秋口にいろいろ行われる集客イベントでは、来場者も多く賑わいができるが、商品購買に関しては若干低調のように感じる。スマホでのネット通販の影響もあり、衝動買は少なくなり、熟考購入、比較購入が定着してきたのではないかと。
	商店街代表者	地元の大手企業の動きがどうなるのか。地元大手企業のグループ会社を中心とした自動車部品や業界の再編、存続等、気になる動きが出てきている。しばらく地元経済に影響のある地元大手企業の動きに目が離せない。
	スーパー	クレジットカードによる決済をする客が増加した。
	スーパー	外食人口が減少傾向に見える。その分ショッピングモールなどでの中食が増加。家庭での食事中心傾向がある。外食は専門的な店が中心で、ファストフード系は弱い。地域的に、そばやうどんは専門的と、ファストフードの差が大きい。
	酒・各種商品小売業	街が過疎化していて、店も後を継がせることが出来ず、若い人は町を離れる割合が高い。
	コンビニエンスストア	景気が悪く客足が悪い反面、高品質の商品の動きが良く、客単価は上昇傾向であるため、客もお金を使うシーンをシビアに選択しているように思う。
	小売業（弁当・惣菜店）	消費税増税に関しては特に大きな影響は感じなかったが、8%の軽減税率の対象外の経費分の負担増がじわじわとくるのではという不安はある。また、キャッシュレスの普及が急速であり、自社での対応も検討中である。
	小売業（酒類）	人手不足のようだが、実質賃金は上がっていないとのこと。
	小売業（水産物）	市の人口減少も影響しているのか分からないが、集客が伸びない。
	レストラン	良くなる事を祈る。
	ラーメン店	建設関係者が県内より県外に出ているように見える。
	スナック	年配者でもキャッシュレスで支払う人が増えた。
	ラーメン店	来店客の客層が、今までの来店客よりも若い方になってきた。
	食堂	所得の差が景気に大きく関係しているようである。
	観光型ホテル	いきいき茨城ゆめ大会の中止は、10月の売上げに響き、減少した。もう少し中止の決定が早ければ、材料仕入れなどを抑えることも可能だったのだが。
	タクシー運転手	日立北部に大型ショッピングモールが3月にオープンして、映画館が進出する。
	ドライブイン	軽減税率による8%と10%の税率別の経理に未だに慣れない。手数ばかりが増えていく。各業者も、納品書などにおいて入力等で苦労している。
	レジャー施設	地域の小売店を見ると、ポイント還元を実施している店舗は今まで通りか、消費税増税前よりも客が多くなったように感じる。
	ゴルフ場	消費税増税の影響で、キャッシュレスの動きが増えている（カード支払122%）。また、東京五輪を控え、スポーツ全般に関心が高まっている。
	ボウリング場	鳴り物入りで導入したキャッシュレス決済の利用の伸びが今一つ悪い。知っているアプリを入れている客だけがひっそりと利用しているという状況。スマホアプリを使用するタイプではなく、交通系ICカードが利用できるタイプの決済方法であればより多くの方に気軽に利用してもらえんと思っているが、これでは景気は良くならないと思う。
	写真店	キャッシュレス決済をする方が多くなっている。客自らが、インターネット等の利用により、良いものを安く手に入れる方法を模索している。
	住宅販売会社	様子見のお客が増えている。特に期限を定めず、本当にメリットがあると思う場合に購入を考える方が増えていると思う。
	企業	林業関係者
製造業（電気機械器具）		身のまわりの景気は変わらないと思う。
製造業（電気機械器具）		景気が悪くなる兆しが出ているが、人材の確保はとても困難な状況である。新卒、中途どちらにも言えるが、特に大学卒の理系の確保が厳しい。
製造業（食料品）		食品スーパーなど、かなりの特売チラシを出しており、物によって最安値が出ている。客の購買量が少ないように見える。
製造業（電気機械器具）		季節的要因もあるが、クリーナー、炊飯ジャー等、一部家電に勢いがある。最終的に人が行う仕上げの部分に不足が生じる。
製造業（一般機械器具）		周囲の事業所において厳しい声を聞いている。
製造業（輸送用機械器具）		米中貿易摩擦に加え、日韓経済悪化が継続している中、来春の米国大統領選挙を控え、更なる追加規制が発動されるのか注視する一方、国内経済への影響を見極める必要がありそうである。
製造業（精密機器）		景気が悪い会社が多いという話を聞いた。
運輸業		荷動きは当社取引先ではおおむね昨年と変わらないが、工場の稼働が減少しているように思われる。
金融業		従業員の離職が目立ち、人手不足が経営の課題となっている事業所が多い。飲食関連事業所においては、事業継続が困難となり廃業となる店舗が後を絶たない状況。
不動産業		消費税増税については落ち着いた感じがする。個人的にもキャッシュレス払い（カードや〇〇ペイ）が増えた。
運輸付帯サービス業		身近なところで、「早期希望退職を募っている」などの話がある。また、小さな企業で、「先行きが不透明」や「このまま続けても…」など、不安な声も聞かれる。
雇用		求人広告
	公共職業安定所	市内に商業施設が来春に開業する。物販、飲食など数十店が入る専門店棟があるとのこと。
	求人開拓員	水戸市内原地区に住んでいる。現在、宅地造成、住宅建築が多いと実感している。少なくとも身の回りでは景気が良いと思っている。最近では水戸ホーリーホックが専用競技場候補に旧内原地区か旧常澄地区をあげているとのニュースもあった。



## (2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	大手メーカーや商社の営業職からは、あまり業績が良くないとの話を聞くことが多い。特に、都内の業績が悪いとのこと。オリンピックの特需で良いとばかり思っていたので意外な話で驚いた。
	商店街代表者	当店の近くにホテルがオープンした。当商店街も交流人口が増えると期待しているが、現在のところ毎日成田の観光バスが発着している。中国系の観光客で、成田に到着した便で夕刻に水戸のホテルに宿泊して翌朝東京や日光方面へ出発していく。茨城県や水戸に滞在して消費活動をしてもらいたいと思う。
	百貨店	顧客の買い方は慎重になっている。
	百貨店	キャッシュレス決済を始める方が増えてきている感じがするが、その年齢層は限定されているような気がする。
	スーパー	世界的な流れであるGoogle, Amazon, Facebook, AppleのいわゆるGAFaなどの大企業に立ち向かうにはアジア圏での企業の吸収合併が必要であり、日本企業がその旗振り役になれるかが、今後の日本経済の未来に関わっていると思う。
	スーパー	先行き不透明感、年金問題等、消費にマイナスな報道が多く、貯蓄が増加する傾向が感じられる。
	スーパー	テナントで従業員を募集しているが、全く募集が無いようである。時給を上げ、福利厚生を手厚くしても来ないので、このままだと退店せざるを得ないと言っていた。
	コンビニエンスストア	外食産業が苦しい。先日、牛丼チェーン店に行ったところ、多くの方が持ち帰りになっていた。
	楽器販売	需要の停滞がある中、メーカーから掛率変更の依頼があったりと、業界をあげて閉塞感がある。
	レストラン	忘年会での利用に関して、学校関係の予約が少ないように思われる。台風被害等の影響で自粛傾向があるのではないかと。
	割烹料理店	ゴルフや釣りなどの趣味や旅行、食事などにお金を使う人が増えている気がする。
	観光型ホテル	旺盛な旅行需要を支えた70代が団塊の世代になり、消費マインドに違いがあるのかシニア層が減少傾向にある。
	タクシー運転手	12月は年間を通して一番の稼ぎ時だけに、一人でも多く繁華街に足を運んでほしいが、繁華街でもキャッチの人数がととも増え、なんとか対処してほしい。それを改善しなければ、客足は遠のく。
	タクシー会社	国外・県外からの観光予約が増加傾向にあったが、今は下降傾向で動いている。
ペット美容室	景気が良い方はさらに良く、悪い方はもがいてばかりで、両極端のような気がする。	
企業	製造業(食料品)	有効求人倍率が上がりすぎ、より良い職場を求めての離職(特に独身者)が多いように感じる。
	製造業(食料品)	身の回りで、廃業する取引先も多くなっていると感じられる。
	製造業(印刷・同関連業)	身近な会社が破産手続きを行った。当社としても売掛がある。未回収となるので大変である。
	製造業(印刷・同関連業)	報道では景気が良くなってきているとの話だが、全くそれを感じられない。
	製造業(一般機械器具)	台風に関する補助金や金利、その他早く手を打ってくれたと思う。関係の方々が早く使えるよう、やさしく導いて下さい。なかなか役所へは行きづらく、話しづらいのが製造業関係の人々。
	製造業(精密機械器具)	自社製品の国内市場と、OEM製品の海外市場が活況を呈している。
	建設業	不景気感を感じないが、先の見通しに停滞感がある。
	運輸業(道路貨物運送業)	人材の確保が難しい状況にある。
	金融業	水戸地区の一部においては、先日の台風水害により相当なダメージを受けている。保険支払いが始まっており、今後従前の事業を継続するかどうかを検討している方も多い。 市内中心部においては、大型商業施設に消費者が流れ、依然として地元商店街は苦戦を強いられている状況である。
	不動産業	同業他社もキャンペーン等行っている事から、客の確保には苦戦しているものと考えられる。
建設業	消費税増税により、今までより税率が2%上がったが、建設業においては請負金額が大きいため、2%の増税でも客はシビアになっている。しかしながら、建築、土木、不動産においては手を加えなければならないため、仕事量としては消費税増税の影響はそれほど見られない。	
雇用	求人広告	台風など、突発的なことに対応する余裕がない。
	公共職業安定所	水戸市元吉田に、大型商業施設ができる。各店のオープン時期は異なるが、ゴールデンウィークまでにはすべての店舗がオープンする予定。ガソリンスタンドを入れて14店舗が入ることになっている。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	当管内では、10月からのプレミアム付商品券や子育て応援券支給事業により、市内、小規模事業者の加盟店登録も増加し、また消費者への事業浸透も広がりつつ、換金作業も順調に進んでいるので、地域の活性化に繋がるよう期待をしている。
	スーパー	電子マネーでのキャッシュレス還元(5%)が当社でも始まったが、思ったほど売上げが伸びていない。
	スーパー	消費税増税に伴い、キャッシュレス還元事業を行っているため、客の支払いのキャッシュレスの割合が50%以上になってきている。ポイント還元にも敏感に反応する傾向が強まっている。
	コンビニエンスストア	男性でタバコをキャッシュレスで購入している客が増えている。お金に関してシビアになっている方が多くなっているのではないかと感じる。
	コンビニエンスストア	キャッシュレス還元がある(2%)ため、客のキャッシュレス決済利用が増えた。
	衣料品販売店	コートなど高単価の商品を毎年購入していた客が、今年はダンスにあるもので我慢するといったケースが増えた。実際、試着して悩まれる方が多くなった。
	家電販売店	集客、購買共に上昇傾向にあり、消費税増税後の買い控えは薄まりつつある。
	農産物直売所	季節要因ではなく、台風や異常気象による農産物への影響がここずっと厳しく、特に客足に影響を及ぼし、自店を含め農産物を扱う同業他社の店の売上げ(経営)を大きく圧迫している。
	小売業(薬品店)	高単価の化粧品の販売数が増税前の水準に戻りつつある。
	小売業(食品)	消費税増税の影響がある。
	小売業	キャッシュレス決済が増えてきている。消費者には特典も多いが、販売する側は手数料などの負担がきつい。
	小売業(書店)	県立高校の参考書の発注などを、せめて地元の書店に発注してほしい。現在は県外の書店へ発注しているとのこと。
	和食レストラン	当社に限らず、夕食の時間帯にも関わらず外食産業店舗の駐車場が閑散としているのが見受けられる。
	洋食食堂	当地の小売店(飲食店)は減少し続けている。だが、商売を続けられれば、売上げは確保でき、利益も得られると思う。小さな店であることをメリットとして捉えられるように仕事に向き合っていきたいと思う。
	割烹料理店	消費税増税分をキャッシュレス還元しているが、国会で還元分が多くて予算を増やす事は、本末転倒ではないかと思う。
	日本料理店	消費税を増税して、景気が上がらない=税収が増えない。なぜ上げるのか。削減すべきところは無いのかと経営者の集まりでよく聞くので、先は暗いのかと思う。
	海鮮料理店	年末になると少しは景気が良くなるが、今年は全くない。飲み会の人数は少人数になり、予約がない時は20時頃には営業時間内でも終わり。食事だけの人も減少している。とにかく、外食をするほど収入がないと思うし、守りに入っている。例えば、4人家族で使う額は5千円くらいだと思う。
	タクシー運転手	大きな動きは無いが、若年層も安心して働ける職場が必要。イギリスではタクシー運転手になかなかないと思う。なったら生活が安定するというような環境にしなければ生き残れないと思う。
	ゴルフ場	求人募集を行っているが、なかなか人員確保が出来ていない。
	クリーニング店	台風のための修繕が思うように進まない。来年までかかるようである。
企業	農業関係者	農家所得が減少していることから、高額な農業関係機械等の購入を控えている様子が伺える。
	製造業(化学工業)	消費税増税の影響であるのか、スーパーでキャッシュレス決済を行い還元を受けるため、事前にチャージ(入金)したうえで使用する消費者が増えているように感じる。
	製造業(食料品)	東南アジア産の鯖缶の販売低迷による見切り処分品の影響を受けて、国産品の価格低下傾向が続いており、近海鯖漁の水揚げ開始となったが、魚価動向が注目されている。
	製造業(電気機械器具)	一時の人手不足があまり聞かれない。マンパワーの充足感はあるのかもしれない。
	製造業(ゴム製品)	台風の影響で取引先の工場稼働がストップしているところがあり、元のようにするには時間がかかりそうである。
	製造業(金属製品)	消費税増税による反動は少なかったが、一般の方々には購買力が既にないと思われる。選択と集中で、必要外のものに手を出さないと思う。
	金融業	売上入金にキャッシュレス関連の入金が増加しており、キャッシュレス化が進んでいると思われる。
	保険業	東関東自動車道建設工事と355号バイパス工事で、ダンプカーが忙しく動いている。
	不動産業	12月は忘年会シーズンのため、居酒屋でカラオケ設置の店は特に忙しいように思う。代行を頼んでも1時間以上かかる。
	不動産業	自然災害が多発しており、そのようなことが心配である。
サービス業	消費税が増税されたことによる影響があまり出ていない気がする。	
雇用	民間職業紹介業	最近では、職種を問わず外国人(就労可能なビザ取得者)を雇用する会社も多くみられる。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	スーパー	外国の労働者（客数）が増えている。
	コンビニエンスストア	貧富の差が大きい。
	コンビニエンスストア	他人の買い物をしている姿を見て、物を購入するのにとっても慎重になっている。衝動買いをしない。
	農産物直売所	クレジットカードで決済する客が多くなった。一部の客は消費にシビアである。
	小売業	増税後、客数は前年を少し上回る入店状況であるが、一人あたりの客単価が昨年より3～4%ダウン傾向である。
	小売業（米穀）	ブラックフライデーは皆恩恵を受けたようである。キャッシュレス決済も大分浸透してきたようで、今後、入金サイクルが長くなると困るといのがもっばらの話題。クレジットカード決済も駆け込みの申込みが多かったようで、当店の申請（9月）も承認待ちが続いている。現在はPayPayのみだが、利用する方が増えてきた。
	洋食食堂	売上げが上位といわれていた近くのコンビニが閉店した。新しくリニューアルして1年経たずにあつという間だった。また、昔では考えられないが、当店の、子供（七五三祝等）が水でおしまいという客が多くなった。居酒屋でも、家族で来店されるそうだが、子供にジュース等は頼まず、水でおしよの食事会が現実にあるようだ。
	寿司店	老人が増え、杖をついたり、肩を抱かれたりしながら歩く人が多い。
	都市型ホテル	忘年会受注に関しては、産業別で良し悪しがあった。前年まで開催していた企業が見送りとなったり、少人数の企業を多く受注したり、今後また歓送迎会の受注を注視したいと思う。
	都市型ホテル	商店街の小売店にはいつも客がいない。客はディスカウント店やスーパーに集中しているようである。ディスカウント店で、ペットボトルの飲み物をケース（24本）で買う人が多くなってきた。スーパーではレジでポイント券や値引き券などをやたら配っているようだ。こんな状況では商店街の小売店がどんどん厳しくなっていくようである。
	タクシー会社	九州の酒屋からFAXや電話での営業がひっきりなしにくる。それくらいまめに注文を取らないといけないのかと思う。
	サービスエリア	パート・アルバイトの募集をするも、応募が少ない、また、逆に会計機器の導入により人員の削減を図る動きも見られる。
	ゴルフ場	従業員の不足分を募集しても、パートも含めてなかなか応募がない。周辺の飲食店などの時給が上昇しているせいだろうか。
	ゴルフ場	来年はオリンピックが開催される。景気に関しても多くが期待されているが、あまり周りでは話題になっていないように思われる。盛り上がるのはもう少し先になってからだろうか。
	テーマパーク職員	支払い時に、ポイント還元などの質問が多くなってきたように感じる。少しでも還元させようという気持ちは、キャッシュレスの流行によるものなのか、消費に対し、数パーセントでも大切にというものなのかは、わからないが、景気が決して良くない現状での消費税増税に対し、何らかのバックを活用しようという傾向があるように感じる。
	ボウリング場	政府によるキャッシュレス還元の制度がシニア層には難しく、恩恵を受けているという方の話を聞かない。
理・美容店	バーコード決済について、当店でPayPayを利用する人が増えてきている。これが消費の起爆剤になればと思う。	
理・美容店	クレジットカードによる決済が増えた。	
企業	農業関係者	人手不足が影響しているようで、仕事の拡大や質の維持が困難なようである。軽減税率やキャッシュレスへの対応が難しいと感じている高齢者が多く、今後どうすることが良いのか迷っている方が多い。
	製造業（家具・装備品）	大型店へ行くと、チラシを入れたときには人が多いが、普段はやはり少ないようである。高齢者の方などは、一つの物を買うのに時間が掛かる。気持ちは分かるが、わずか2%といっても、8%と10%では実際の数字よりも気が重くなるのだろう。これからが難しい時代になった。
	製造業（その他）	やはり人手不足もあるが、オリンピック関連事業としても終了し、その後の見通しが無いというような話を聞いた。
	製造業（窯業・土石製品）	前回の消費税増税時よりは落ち込みは小さいと思う。
	製造業（非鉄金属）	雇用環境が若干改善している。
	建設業	人手不足で外国人労働者の雇用が言われているが、零細土建屋にとってはオーバーステイ者の雇用くらいしか方法がない。日本人、特に若者の雇用は夢物語である。65～70歳の定年退職者でも良いのだが、それでも来ない。何とかしなければと思う。景気が良くなればなるほど痛感する。
	不動産業	収益物件に対する融資が大変厳しくなっている。
	運輸業（倉庫業）	人手不足は相変わらずであるが、年末の繁忙期は例年より貨物が少ないため、残荷は発生せずに済むと思われる。
金融業	ZOZOのつくば物流センター（ZOZOBASE）が秋から本格稼働し、800名程のアルバイト従業員を時給1,100円～1,500円で募集しており、結果として、土浦市内の飲食・物販企業のアルバイト従業員が更に集まりにくく、十分なオペレーションが出来ない状況となっている。	
雇用	公共職業安定所	台風19号などの影響がどのくらいあるか気になる。（直接被害がなくても、部品等の納入などの影響はあり得る。）

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	ショッピングモールに高齢者が非常に（異常に）多い。商店街に人通りは皆無。
	商店街代表者	消費税増税関係について。食品小売業のため、売上げには特に影響はなかった。カフェ併設なのでその部門の落ち込みを危惧していたが、杞憂に終わった。また、カード利用者が急増した。特に、交通系（Suica等）ICカードの利用が多くなった。
	コンビニエンスストア	国の政策であるキャッシュレス還元については大きな変化が見られ、キャッシュレス（クレジットカード、電子マネー、バーコード決済）比率は1～6月対比で今月は上昇している。
	農産物直売所	台風15号・19号の影響でいちごの出荷が全体的に数量減、小粒傾向。都内のケーキ屋等からクリスマス向け注文・問い合わせが多い。景気が良くも悪くもクリスマスは関係ないと思ってしまう。
	製茶販売	お年寄り、独身女性も財布の紐が固くなったと思う。みんな生活がカツカツなのに政治家の給料は変わらないのか。
	ラーメン店	外食をする人が減っているような気がする。
	日本料理店	活性化、魅力、筑西市に住んでみたいという町づくりか何かあればと考えているが、予算もないようである。私たち中小企業はこれからも不景気でもがんばっていくほかないと思う。良いアドバイスをよろしくお願いします。市と話し合い等して、町のあり方等ご指導ください。
	都市型ホテル	ボーナス支給額の減額を多く耳にする。
	旅行代理店	日帰り温泉700円で1日遊んだり、カラオケ屋で1000円で1日遊んだり、老人の方は行かれています。旅行は8000円～9000円/日帰りなので客は安くて楽しい所をねらって探して楽しんでいる。バス旅行に参加していただくように、車内ビンゴ大会やじゃんけん大会など工夫して、参加者を集めていこうと苦心している。県内の無料施設などや工場見学で土産付きなど行程に入れていく。
	タクシー運転手	夜の飲食店の店仕舞いが早い。客も少ない。働き方改革で変わったので、残業がないため給料は少なくなってきたとの話が多い。
	ドライブイン	景気対策のキャッシュレス還元事業に伴い、クレジットカードの利用率が増加し、それに伴う事務処理の負担が増加している。
	スーパー銭湯	消費をする対価についての目がより厳しくなったと感じる。必要なもの・ことを最小限で、ということを感じる。
	商店街代表者	ポイント還元などの政府施策により、実質的に値引きと同じ効果になるので、消費が伸びる事を期待する。
	建築設計事務所	田舎で仕事をしている私の身近な周りにもM&Aが見られる。
	住宅販売会社	銀行の事業用融資が厳しくなっている。
企業	製造業（窯業・土石製品）	梱包資材の営業担当者が、数量は増えているとのことであった。また、新電力会社についても省エネが進み採算が悪化していると説明があった。
	製造業（窯業・土石製品）	最近、地元の同業者が多額の負債を負って自己破産した。今までは他人事のように感じていたが、同じく仕事を経営する者として同情を禁じ得ないどころか、いつか自社もそのようにならないように襟を正し、仕事主体に考えて経営に取り組むことを新たにした。
	製造業（金属製品）	素材販売会社では、材料が動かないと口にしてている。
	建設業	仕事があっても人手不足である。
	金融業	住宅新築関連は消費税増税以降極端に減少するかと思われたものの、政府の減税延長等が功を奏したのか引き続き堅調な動きが見られる。
	不動産業	駅近くのマンションの中古市場が活発化しており、価格も上昇傾向である。
サービス業（コンサルタント業）	圏央道周辺での賑わいはあるが、工事業者等は他県の業者であるため、直接景気に結びつくようには感じられない。	
雇用	求人広告	買い物などに行っても、店の賑わいが落ち着いている気がする。いつもより買い物がスムーズに終わる。そのような部分でも景気が悪いと感じる。
	学校就業関係者	消費税増税に伴い、買い控えをしている。
	求人開拓員	製造業、サービス業、医療介護関係についての管内での求人は堅調であると感じている。